



夢限大

～熱き想いを胸に、共に次代を切り開こう～

一般社団法人 浜田青年会議所
創立65周年記念誌





一般社団法人 浜田青年会議所 創立65周年記念誌

CONTENTS

JCI Creed・JCI Mission・JCI Vision・JC宣言・綱領	02
ごあいさつ	03
祝辞	05
創立65周年記念式典	10
創立65周年記念祝賀会	12
創立65周年記念ゴルフコンペ	13
創立65周年記念事業	14
(一社)浜田青年会議所65年のあゆみ	18
過去5年間の事業報告	24
今年度事業紹介	44
友好JC	47
長期・中期ビジョン	48
運動系図	50
現役会員	52
浜田青年会議所OB・OG総会	54
OB・OG会員名簿・物故会員	55



JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men ;

That earth's great treasure lies in human personality ;

and That service to humanity is the best work of life.

我々はかく信じる

真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である

JCI Mission

To provide leadership development opportunities that empower young people to create positive change.

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders.

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる。

JC宣言

日本の青年会議所は

希望をもたらす変革の起点として

輝く個性が調和する未来を描き

社会の課題を解決することで

持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

我々JAYCEEは

社会的・国家的・国際的な責任を自覚し

志を同じうする者、相集い、力を合わせ

青年としての英知と勇気と情熱をもって

明るい豊かな社会を築き上げよう



ごあいさつ



一般社団法人 浜田青年会議所
第66代理事長

串崎 舞

一般社団法人浜田青年会議所は本年度創立65周年を迎えることができました。

1958年玉川舜一郎初代理事長を中心に50名の熱き想いをを持ったチャーターメンバーの皆様、そして公益社団法人松江青年会議所様の力強いご支援をいただき全国146番目のLOMとして設立されてから、浜田市をはじめとする行政、関係諸団体、地域の皆様のご協力、また同じ志を持った各地青年会議所のJayceeの皆様、そして先輩諸兄姉の皆様が弛まぬ努力と行動力で浜田のまちづくりに貢献し続けてくださり、幾度となく組織を変化させながら地域に多大な影響を与え続け、必要とされる団体として伝統を築いてくださった賜物であると心より感謝申し上げます。これまでの歴史に感謝と敬意を表すと共に、これから新たな歴史を創っていく決意を表す為に、創立65周年記念誌を発行させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により当たり前に行っていたことができなくなり様々な活動が制限され、友情を深める交流の場も多く失われたこの約3年間、その中でも私達は活動・運動を止めることなく沢山のことを考え、学び、行動することで絆を深めどんな困難にも立ち向かう力を養いコロナ禍を乗り越えることができました。

本年度はスローガン「One heart～幸せの未来のために～」また創立65周年スローガン「夢限大～熱き想いを胸に、共に次代を切り開こう」のスローガンの下、周年事業を盛大に執り行うことができ、地域の皆様、先輩諸兄姉、各地青年会議所の皆様と再び絆を深めることができました。

しかし、新型コロナウイルスがもたらした経済への影響は大きく、浜田市が抱える地域課題も深刻化深しております。今後、明るい豊かな社会の実現、持続可能な浜田市の実現のために私達は更なる強靱な組織へと変革をし、課題解決へ心をひとつに取り組んでいく必要があります。中期ビジョン2027「Realize」を掲げ、新たな一步を踏み出しすべての人々が幸せに住み暮らせるまちを目指して私達は今後も行動し続けることをお誓い申し上げます。

結びになりますが、創立65周年記念誌の発行にあたってご協力をいただきました先輩諸兄姉をはじめ多くの方々へ感謝を申し上げますと共に今後とも私達、一般社団法人浜田青年会議所へより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。



ごあいさつ



一般社団法人 浜田青年会議所
65周年実行委員会 委員長

福田 直人

一般社団法人浜田青年会議所は1958年、公益社団法人松江青年会議所様のご支援のもと、全国で146番目の青年会議所として誕生致しました。創立以来、永きに渡る先輩諸兄姉のご尽力、また市民の皆様、行政の皆様、関係各諸団体の皆様、各地会員会議所の皆様にお支えいただき、65周年を迎えることができました事、心より御礼申し上げます。

振り返りますと1958年の創立以来、浜田青年会議所として様々な事業を行ってきた中で、その裏には先輩方の熱い想いや、血の滲むような努力があったこと、また関係各諸団体の方々のご理解、ご協力があったからこそ、こうして65周年を迎えることができたのだと実感しております。

本年度、創立65周年という節目を迎えるにあたり、スローガンを「夢限大～熱き想いを胸に、共に次代を切り開こう」と掲げ、明るい豊かな社会の実現にご尽力された先輩諸兄姉のこれまでの功績に感謝と敬意を表するとともに、関係各諸団体の皆様へ中期ビジョン2027“Realize”をお示しさせていただき、覚悟を持って次の一步を踏み出しました。

私達を取り巻く現状は、人口減少や少子高齢化を始めとした様々な問題があります。しかしながらそういった時代の中で青年会議所が今、何をしなければならぬのか、また何を求められているかをしっかりと調査・確認した上で行動に移し、地域にインパクトを起こすことこそが、我々の存在意義であると考えます。一般社団法人浜田青年会議所は、今後も時代に合わせ、市民の皆様に求められる役割をしっかりと果たし、地域の発展に向けて積極的に貢献して参ります。今後とも、関係各位、各地会員会議所、先輩諸兄姉の温かいご理解とご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。



祝 辞



島根県知事

丸山 達也

一般社団法人浜田青年会議所におかれましては、このたび創立65周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴会は昭和33年の設立以来、「明るい豊かな社会と人間の開発」を目指して、地域資源の発信や青少年の健全な育成に寄与する事業などに取組み、地域社会の発展に大きく貢献してこられました。皆様の長きにわたるご尽力に深く敬意を表します。

さて、最近の社会情勢に目を向けますと、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に加え、エネルギー価格や物価の高騰など、県民や企業の皆様にとって厳しい環境が続いており、県としましても、県民生活の安定化と県内経済の回復に取り組んでいるところです。一方で、県が抱える最重要課題である人口減少に歯止めをかけるため、将来を担う若い人たちははじめ多様な方々が安心して、意欲をもって働ける魅力ある雇用の場を創出するなど、総力を挙げて「島根創生」の実現に向けた取組を進めております。皆様方には、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

浜田の地には、県内唯一の国際貿易港である浜田港や、のどぐろに代表される農林水産品など多彩な地域資源に加え、日本遺産「外ノ浦」などの豊かな自然、さらには石見神楽や石州半紙といった、長い歴史に支えられた伝統文化などの他、温かみのある人間関係や地域社会が残されています。皆様にはこうした強みを活かしながら、浜田地域はもとより島根の将来を担うリーダーとして、さらに飛躍されますようご期待申し上げます。

結びに、一般社団法人浜田青年会議所の益々のご発展と、皆様のご健勝を祈念しまして、祝辞といたします。



浜田市長

久保田 章市

一般社団法人浜田青年会議所が本年度65周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、昭和33年の設立以来、活動の基本である修練・奉仕・友情の3つの信条のもと、明るく豊かな社会を目指し、地域社会に多大なるご貢献をいただいておりますことに対し、心より敬意と感謝を申し上げます。去る8月には、創立65周年記念事業として、サッカー日本代表監督 森保一 氏の講演会を開催されました。「夢を追いかけて挑戦の舞台へ」をテーマに講演され、未来ある子供たちや若者世代にとって、大変参考になったものと思います。

浜田市では昨年度から「若者対策」に力を入れ、「若者の出会い・結婚・出産・子育て応援プログラム」など、トータルで応援する取組や若者の移住促進に取り組んでおります。より一層の支援充実のため、「若者が暮らしたいまちづくり」を目指し、今年度から「若者支援ファンド事業」をスタートしました。すでに実施している事業への上乗せ補助や新たな若者支援策を行い、若者の生活や起業等を支援することで、若者世代の定住や人口減少の緩和につながる施策を展開しております。

浜田市が県西部の中核都市として発展していくためには、地域に蓄積されたノウハウや技術といった企業価値を次世代に受け継ぐとともに、若い世代の経営感覚と実行力が極めて重要な役割を担っています。青年会議所の皆さんにおかれましては、日々の活動を通じて得られた人的ネットワークと行動力を生かし、次代の担い手として、新たな時代を切り拓いていただきたいと願っております。

最後になりましたが、一般社団法人浜田青年会議所のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。お祝いの挨拶とさせていただきます。



祝 辞



浜田商工会議所
会頭

樫山 陽介

一般社団法人浜田青年会議所創立65周年を心からお祝い申し上げますとともに、商工会議所活動に格別なるご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

一般社団法人浜田青年会議所は昭和33年5月、初代 故 玉川 舜一郎 理事長を中心に若手経営者により創立されて以来、「明るい豊かなまちづくり」を目的として、商工業の発展、豊かな地域づくりの為に、様々な活動を積極的に推進されてこられましたことは、商工会議所といたしましても非常に心強いかがりであり、改めて敬意を表するとともに感謝申し上げますところでございます。

我が国の経済は、3年近くになる新型コロナ禍に加え、エネルギー及び食料価格の高騰と円安に伴う物価高騰により大きな打撃を受けております。特にエネルギー・食料についてはコロナ禍から回復傾向が兆した2021年以降価格上昇が始まり、ロシアのウクライナ侵略が始まると同時に一挙に騰勢を極め沈静の兆しが見えない情勢です。またこの地域の経済情勢としては、人口減少が止まらず、売り上げ不振、人手不足、その結果としての事業者の廃業等、従前からの大きな課題を抱えたまま日本経済を取り巻く状況に翻弄されている状態です。

当商工会議所といたしましては、地域の活力向上のために各種の事業を展開し、特にここ2年はコロナ禍で苦境にある事業者に対する支援に重点的に取り組んでまいりました。今年はコロナ禍を克服し、地域の活性化のために中心市街地の活性化、浜田港の利活用、観光振興に取り組んで行きたいと考えております。

今、世界はめまぐるしく変化しております、今後の10年、20年は過去の10年、20年と比べ、その変化は大きく異なってくるものと考えられます。この時代に地域を活性化するためには、従前を超えた斬新なアイデアを持つ若い方の情熱とリーダーシップが必要とされるところで、一般社団法人浜田青年会議所の皆様には、その中心となりご活躍頂けるものと期待しております。

最後に、一般社団法人浜田青年会議所の更なるご活躍と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げ、祝辞とさせていただきます。



浜田青年会議所OB・OG会
会長

江木 修二

一般社団法人浜田青年会議所創立65周年、誠におめでとうございます。現役会員の皆様と共に、OB・OG会員一同心よりお慶び申し上げます。

一般社団法人浜田青年会議所は、昭和33年、公益社団法人松江青年会議所様のスポンスにより、結成され、「明るい豊かなまち」づくりを目的として、「1ロム1物語」といった地元根付いた様々な運動を継続的に展開してきました。また、単年度で理事長が代わるという交代の早い組織体制も、より会員にその機会を与えられるチャンスがあるメリットもあります。マンネリ化することなく、絶えず新理事長が時代に沿った新しい風を組織に吹き込むこともできます。継続事業は継続事業として、その意義は大きいものです。大名行列奴隊文化保存継承事業などは、胸を張っていい立派な事業です。

さて、そんなこの5年の間に全世界に未曾有の衝撃が走りました。コロナ禍です。ワクチンもすぐに対応できず、感染者の拡大で緊急事態宣言の発出など、未知のウィルスとの対応に追われました。健康面での被害だけでなく、このコロナ禍は経済的にも大打撃を与えました。これまでの経済根幹の効率性「密」を否定され、観光・イベント・娯楽等、経済活動を控えざるを得なくなりました。奉仕運動の展開ですら、「密」を避けるため、自粛という状態が続きました。そういう状況下でも、奉仕の灯を絶やさず、今日まで来られました現役の皆様には頭が下がります。

「継続は力なり」と有名な格言があります。この時こそ、この言葉の意味と、難しさを噛みしめたことはありませんでした。コロナ禍の影響で、ことを「続ける」ことが難しくなったのです。しかし、コロナ禍により、「当たり前」のことが「当たり前」でなくなったことで、「感謝」の気持ちを再確認できたという話も耳にしました。視点に大きな変化が生じた事象でもあったということのようです。

一般社団法人浜田青年会議所65年の歴史は、「まちづくり」「ひとづくり」の歴史でもあります。その時代を共有した同期のメンバーと同じ空気を吸い、泣き、笑い、そして親睦を深めて、奉仕に向かって下さい。「参加なくして親睦なし、親睦なくして奉仕なし」最後に、一般社団法人浜田青年会議所、そして現役の皆様のご活躍を祈念致します。



公益社団法人 日本青年会議所
第72代会頭

麻生 将豊

一般社団法人浜田青年会議所が創立65周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。貴青年会議所は、1958年の創立以来、65年の長きにわたり、まちの未来を常に考え続け、地域の発展に寄与すべく青少年の健全育成、国際交流活動など様々な事業を展開され、官民と連携して活力ある浜田のまちづくりに貢献してこられた暦年の功績に対し、心より敬意を表します。

また、日本青年会議所の事業並びに運動に対しまして、日頃より多大なるご理解とご協力を賜りますこと、そして多くの出向者をご輩出いただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

本年に入り新型コロナウイルス感染症も収束傾向となり、少しずつではありますが、日常を取り戻してきています。しかしながら、不安定な世界経済が引き起こす影響や、紛争による原材料価格の高騰などの影響は大きく、社業や家族との、明るい未来への夢を描くことが難しくなったと感じる大人も多いのではないのでしょうか。しかしながら、創立より青年経済人の想いを紡いでこられた貴青年会議所の皆さまにおかれましては、諸先輩方の熱き想いを継承し、65周年という記念すべき年に、串崎舞理事長が掲げられる『One heart～幸せな未来のために～』というスローガンのもと、志を高く持ち、感謝の心を忘れず、明るい豊かな社会の実現を目指し邁進されることと存じます。

日本青年会議所としまして、「Drive our dreams～日本の魅力で世界を席巻しよう～」をスローガンに掲げ、全国各地で夢を描ける人財とともに運動を展開し、国際連携により魅せる日本の底力を世界へ発信してまいります。引き続き本会に対し、深いご理解、ご支援を賜るとともに、大いにご活用いただければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい運動を展開されますこと、先輩諸氏、現役会員の皆様にとって実り多き一年となられますことを心よりご祈念申し上げます。



公益社団法人 日本青年会議所
中国地区協議会 2023年度会長

山田 章夫

第66代理事長 串崎 舞 君をはじめとする、一般社団法人浜田青年会議所メンバーの皆様、そして、これまで運動を連綿と繋いで来られました先輩の皆様、創立65周年という記念すべき日を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。誠にありがとうございます。

65周年という長年の間、次代の変化の中で変化に対応しながらも、守るべきものを大切にしながら運動を展開されてこられたかと思えます。言葉にすれば短い言葉ではございますが、その歴史の重みは関わってこられた全ての方々の胸に刻まれているかと思えます。先輩諸兄姉の皆様、そして今の厳しい時代の中でも力強く運動を展開されております皆様に心からの敬意を表します。

この3年間で社会は大きく変わりました。しかし、こんな時だからこそ、未来のために我々青年が運動を展開していくことこそがJCの使命であると強く感じております。

一般社団法人浜田青年会議所の皆様におかれましては2021年度島根ブロック協議会 会長 名田勝之 君のご輩出、運動では公開討論会、Connect with HAMADA、新中期ビジョン2027の策定、大名行列奴隊等、コロナ禍にも関わらず多くの運動を展開されており、浜田の未来の為に活躍されておられます。

また、創立65周年を迎えられる本年も、創立65周年記念事業 森保 一 氏 記念講演会、郷土愛を育む運動をはじめ、多くの運動の展開と情報発信をされておられます。加えて周年の式典を終えた本年から、次の周年に向けた検討会議も実施されており、JAYCEEとしても心動かされ感動しております。

中国地区協議会も、53LOMの皆様の運動が最大化できるよう協議会としての役割を全うしてまいります。この創立65周年という記念すべき節目が、One heart心ひとつに、浜田のまちと全ての人たちの幸せな未来へ進む起点となることと、一般社団法人浜田青年会議所の皆様、OB・OG会員の皆様の更なるご発展、ご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞



公益社団法人 日本青年会議所
中国地区 島根ブロック協議会
2023年度会長

安島 篤志

一般社団法人浜田青年会議所が創立65周年を迎えられましたこと、島根ブロック協議会を代表して心よりお慶び申し上げます。また、これまでの礎を築いてこられました先輩諸兄姉の皆様、日頃よりお支えいただいております地域の皆様、関係各位の皆様のご理解とご協力に対し深く敬意を表します。

1958年、全国で146番目の青年会議所として認証されて以来、先輩方から脈々と受け継いでこられた志や精神をもって率先して青年会議所運動を展開され、浜田の発展、島根の発展に寄与してこられました。本年は、串崎 舞 理事長の掲げられる「One heart～幸せな未来のために～」のスローガンのもと、心を一つにし、明るい豊かな社会の実現に向けて日々運動に邁進されておりますことは、島根ブロック協議会といたしましても感銘を受けるところでございます。創立65周年を契機として打ち出された中期ビジョン「Realize」を一つの軸に、地域を牽引するリーダーとして果敢に挑戦をされ、今後も様々な分野でご活躍されることを確信しております。そして、時代に即して新たな道を切り開き、地域にあたたかな笑顔や希望を与える存在となられますことを切に願っております。

島根ブロック協議会と致しましても、「魅力を結び 夢実現出来る島根の創造」の基本理念のもと、ブロック内の各地青年会議所の運動がより加速していくよう貢献していくとともに、一人ひとり打ち出した夢が実現出来る地域となるよう引き続き取り組んで参ります。

結びに、一般社団法人浜田青年会議所が地域を牽引する組織としてより輝かしい歴史を積み重ねられますこと、先輩諸兄姉並びに現役会員の皆様のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



公益社団法人 松江青年会議所
第68代理事長

伊原 正浩

一般社団法人浜田青年会議所が創立65周年を迎えられましたことにスポンサーJC会員を代表し、心よりお慶び申し上げます。1958年に146番目の青年会議所として認証されて以降、65年の長きに渡り、文化・経済・環境など様々な観点から浜田のまちづくりを考え、まちの発展に多大な功績を残してこられました。明るい豊かな社会の実現に向け、様々な運動を展開し続けてこられた先輩諸兄姉や現役メンバーの皆様のご尽力に心からの敬意を表します。

貴青年会議所は、日本海の豊かな自然に恵まれた地域の特色を活かした素晴らしい運動により、浜田の地の発展に向けた歩みを続けてこられました。本年度も串崎舞理事長の掲げられるスローガン「One heart ～幸せな未来のために～」のもと、未来を思い描き、仲間とひとつになることで、アフターコロナの新時代においても積極的な運動で地域のための青年会議所としてご尽力してこられたことに深く感銘を受ける次第です。そして、単年度制の青年会議所運動の中でも、中期ビジョン2027「Realize」を策定し、今後の「まち」「組織」「Jaycee」に向けた明確な未来を描き、様々な運動を展開される姿は、我々自身にとっても大きな励みとさせて頂いております。

最後に、今後とも貴青年会議所と松江青年会議所が友情を育みながら互いに切磋琢磨し合うとともに、貴青年会議所がこれまでの歴史と伝統を継承し、益々ご活躍をされ、浜田の地がより一層発展していくことを心からご祈念申し上げまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。



一般社団法人 三原青年会議所
第62代理事長

石井 覚道

この度、一般社団法人浜田青年会議所が創立65周年を迎えられましたこと、友好JCとして一般社団法人三原青年会議所を代表しまして、心よりお慶び申し上げます。

創立から今日に至るまでの65年間、地域の未来を見据えたまちづくり運動を展開され、まちの発展に大きく貢献されました諸先輩方のご功績に改めて深い敬意を表すとともに、諸先輩方が築かれてこられた熱き志を受け継がれ活動される現役会員の皆様に心よりお祝い申し上げます。

この大きな節目の年に一般社団法人浜田青年会議所の皆様におかれましては、串崎理事長の掲げる「One heart～幸せな未来のために～」のスローガンのもと、会員1人ひとりが他者の価値観を認め合い同じ目標に向かい行動することで、より強靱になった組織で運動が展開され、温かな幸せな未来が多くの人に訪れるものと確信しております。

1982年11月、記念すべき友好JC調印式が執り行われてから、40年以上、会員同士の交流を続けてまいりました。お互いの青年会議所が、それぞれのまちづくりから学び合い、友好JCとして切磋琢磨しながら友好を深めて参りました。これからもさらにその関係を深め、この友好関係が長く続くことを強く願う次第でございます。

結びに、一般社団法人浜田青年会議所がさらに輝かしい伝統を重ねられますよう、益々のご発展と、会員及び関係者の皆さまのご健勝、愛する地域において素晴らしい成果が発揮されますことを心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立65周年記念式典



理事長挨拶

開催日：2023年6月4日(日)
会場：石中央文化ホール
参加人数：186人

「夢限大～熱き想いを胸に、共に次代を切り開こう～」のスローガンのもと、創立65周年記念式典を執り行いました。

記念式典は65周年を迎えるにあたり、ここまで歴史を紡いで来られた先輩諸兄姉をはじめ、各地会員会議所、浜田市内各団体の皆様への感謝の想いを胸に、我々がここまでの歩みを行えたことに対する感謝と今後5年間でどういった活動、運動を起こしていくことで、幸せな未来を実現していくかのビジョンを示す場として開催致しました。

式次第

- | | |
|------------------------|------------------|
| 一、開会宣言 | 一、理事長挨拶 |
| 一、国歌斉唱 | 一、来賓挨拶 |
| 一、JCソング斉唱 | 一、JCI日本役員挨拶 |
| 一、JCIグリード唱和 | 一、祝電・祝詞披露 |
| 一、JCIミッション並びにJCIビジョン唱和 | 一、スポンサーJCへの感謝状贈呈 |
| 一、JC宣言文朗読並びに綱領唱和 | 一、スポンサーJCより記念品拝受 |
| 一、物故会員追悼 | 一、歴代理事長への感謝状贈呈 |
| 一、出席者紹介 | 一、友好JCへの記念品贈呈 |
| 来賓紹介 | 一、ビジョン発表 |
| JCI日本役員並びに来訪JC紹介 | 一、閉会宣言 |
| 浜田青年会議所OB・OG会員紹介 | |



島根県知事 挨拶



浜田市長 挨拶



浜田商工会議所会頭 挨拶



浜田青年会議所OB・OG会長 挨拶



公益社団法人 日本青年会議所 中国地区協議会 会長 挨拶



公益社団法人 日本青年会議所 中国地区 島根ブロック協議会 会長 挨拶



スポンサーJCへの感謝状贈呈



友好JCへの感謝状贈呈



創立65周年記念祝賀会

開催日：2023年6月4日(日)

会 場：島根浜田ワシントンホテルプラザ

出席者：186人

創立65周年記念祝賀会は、ご来賓の皆様と申崎理事長による鏡開き、島根県議会議員・大屋俊弘様による乾杯の御発声で幕を開けました。新型コロナウイルスの影響により大勢でこのような盛大な会はできない日々が続きましたが、ご出席いただいた皆様との交流と65周年という記念すべき日をお祝いすることができました。申崎理事長と島根県立大学の学生の皆さんとのソーラン節のアトラクションは大盛況に終わり、創立65周年記念祝賀会も皆様のご協力の下、盛会の内に閉じることができました。



歓迎の挨拶



鏡開き



アトラクション



65周年実行委員会 委員長挨拶



(一社)浜田青年会議所メンバー



創立65周年記念ゴルフコンペ

開催日：2023年6月3日(土)

会 場：金城カントリークラブ

参加者：88人

創立65周年記念ゴルフコンペを金城カントリークラブにて開催致しました。当日は天候も良く、多くのOB・OG会員の皆様、島根県内各地会員会議所の皆様にご参加いただき、浜田青年会議所メンバーも参加し、皆様との絆を深めることができました。

皆様のご協力により無事に開催できましたこと心より感謝申し上げます。



開会式



申崎理事長グループ



1番ホールへ向かう参加者



表彰式



創立65周年記念ゴルフコンペ参加者



創立65周年記念事業

創立65周年記念講演

開催日：2023年8月4日(金)
 会場：石央文化ホール
 講演テーマ：「夢を追いかけて挑戦の舞台へ」
 講師：森保 一 氏
 (サッカー男子日本代表監督)



本年度、創立65周年を記念して、サッカー男子日本代表監督の森保一氏を講師としてお招きし記念講演を開催致しました。テーマを「夢を追いかけて挑戦の舞台へ」と題し、コーディネーターとの対談形式で行いました。コーディネーターは浜田青年会議所OBでサンフレッチェ広島時代をマネージャーとして共に7年間過ごされた浅津伸行先輩をお迎えし行いました。

当日は浜田市内の学生中心に約900人もの方々にご来場いただき、森保監督の幼少期

から 現役時代、ワールドカップの話など挑戦することの大切さについてご講演いただきました。

また森保監督とご来場者の皆様との交流として、質問投稿サービス「Slido」を使い質問コーナーを設けました。聴講者の質問に対して森保監督は真摯に語られ、その温かいお人柄に触れることができる貴重なお時間となり、成功裏に終了いたしました。



受付時



対談時



質問コーナーの様子



会場の様子



質問者と直接お話をされる森保監督



森保監督と串崎理事長



森保監督と記念撮影



創立65周年記念事業

「Colorful splash イカした仲間とイカした思い出」

開催日：2023年9月23日(土)

会場：ネイチャーバトルフィールドBB

65周年記念事業として「Colorful splash」を開催致しました。この記念事業では、浜田市内の小学生たちが、絵具の入った水鉄砲を使って色を塗り合う対戦ゲームを実施致しました。

「Colorful splash」は、浜田市地域の子供達を対象に、楽しい思い出をつくることで地域の魅力に気が付ききっかけを作り郷土愛を育む事業です。

子供たちは水鉄砲を手にして、笑顔でインクを掛け合い、お互いの服をカラフルに染め上げていました。子供たちはこの事業に参加することで、新しい友達を作る機会を得て友情を育みました。ゲームを通して子供達は協力とチームワークの大切さを学びました。

私たちはこれからも地域の結びつきを強化し、次世代に素晴らしい体験を提供し、郷土愛を誇りに思う子供たちが増えていく活動を続けていきたいと思います。



試合の様子



準備風景



開会式



試合前に記念撮影



試合を見守る保護者様



第2試合の様子



作戦会議



結果発表



笑顔の参加者



記念撮影



浜田青年会議所 チャーターメンバー



入会認承証



(一社)浜田青年会議所 創立65周年時メンバー

歴代理事長

1958 - 1969

1958年度



初代理事長
玉川 舜一郎

日本JCSローガン
若い力で経済建設

1959年度



第2代理事長
玉川 舜一郎

日本JCSローガン
JCの力で築こう明るい社会

1960年度



第3代理事長
石原 清二郎

日本JCSローガン
JCの一人一人が社会の希望

1961年度



第4代理事長
石原 清二郎

日本JCSローガン
JCは明日の世界の道しるべ

1962年度



第5代理事長
石田 景三

日本JCSローガン
経済の正しい成長になえJC

1963年度



第6代理事長
大島 章

日本JCSローガン
JCの若さで結べ世界は一つ

1964年度



第7代理事長
松尾 徳郎

日本JCSローガン
新時代築く若さと指導力

1965年度



第8代理事長
坂田 英司

日本JCSローガン
福祉国家創るさきがけ果たせJC

1966年度



第9代理事長
長谷 善則

日本JCSローガン
JAYCEEの若さで創ろう明るい未来

1967年度



第10代理事長
石原 康助

日本JCSローガン
JAYCEEの勇気で築こう正しい社会

1968年度



第11代理事長
石原 康助

日本JCSローガン
日本の正しい行く手しめせJAYCEE

1969年度



第12代理事長
俵 清英

日本JCSローガン
JAYCEEの総意でしめせ日本の姿勢



歴代理事長

1970 - 1981

1970年度



第13代理事長
樋山 靖之

日本JCSローガン
豊かな心 厳しい自覚貫け社会の正義

1971年度



第14代理事長
西坂 耕一

日本JCSローガン
豊かな心 厳しい自覚築こうアジアの連帯感

1972年度



第15代理事長
福浜 宏二

日本JCSローガン
考える 行動する若い力が未来をひらく

1973年度



第16代理事長
久保田 政男

日本JCSローガン
若人と創ろう築こう豊かな未来

1974年度



第17代理事長
宮田 弘

日本JCSローガン
模索する英知 挑戦する勇氣
若さで担え日本の未来

1975年度



第18代理事長
松下 修行

日本JCSローガン
人間への期待 明日への行動
創ろう正しい日本の心

1976年度



第19代理事長
木田 裕士

日本JCSローガン
自立の心 拓こう未来 われらの連帯を

1977年度



第20代理事長
片山 勲

日本JCSローガン
築こう日本の礎 はかろう自治意識の高揚

1978年度



第21代理事長
松岡 義之
日本JCSローガン
厳しい自覚 明日への飛躍
世界に示そう 日本の心

浜田JCSローガン
山と水 生かそう築こう 豊かな浜田

1979年度



第22代理事長
樋口 明機
日本JCSローガン
勇氣ある挑戦 厳しい自覚
世界に翔け 青年の力

浜田JCSローガン
3つのコミュニティー、プロジェクトに
新たな展開方法を求めよう今こそ必要と
する経営技術の研鑽と指導力の開発を！
自発的参加意欲から合意を求めよう

1980年度



第23代理事長
遠藤 公輝
日本JCSローガン
ひろげよう地域の輪
たかめよう国際意識
問いかけよう日本の安全

浜田JCSローガン
JCの情熱の和 厳しい自覚
築こう愛する我町浜田

1981年度



第24代理事長
金子 郁郎
日本JCSローガン
見つめよう国際社会
考えよう日本の役割
示そう青年の気概

浜田JCSローガン
暖かい心のふれあいと厳しい自覚

1982年度



第25代理事長
森脇 厚博

日本JCSローガン
わたしのまちから
日本へ 世界へ

浜田JCSローガン
考えよう明日のJC 掲げよう友情の輪

1983年度



第26代理事長
松田 隆敏

日本JCSローガン
切り拓こう 活力ある地域の時代

浜田JCSローガン
考えよう郷土を
挑戦しよう明日に

1984年度



第27代理事長
新田 健浩

日本JCSローガン
今こそルネッサンス
創ろう新しい日本の時代

浜田JCSローガン
興せ我身を時代の先駆へ

1985年度



第28代理事長
服部 孝之

日本JCSローガン
めざそう私たちの21世紀
果たそう青年の役割

浜田JCSローガン
見つめよう21世紀 求めよう地域の活力

1986年度



第29代理事長
伊藤 恭二

日本JCSローガン
おこせ青年の風 つくり変えよう
人 まち 地球

浜田JCSローガン
今、JCが面白い!!

1987年度



第30代理事長
福井 伸夫

日本JCSローガン
受けとめよう世界の心
創ろう新しい日本の生き方

浜田JCSローガン
みんなでめざそう 役に立つ楽しいJC
(社会に、企業に、家庭に・・・)

1988年度



第31代理事長
橋本 立一

日本JCSローガン
今 変革のとき
自ら拓こう 新時代

浜田JCSローガン
1988今、新たなる旅立ちの時

1989年度



第32代理事長
小河 修二

日本JCSローガン
地球時代のデッカイしあわせ
つくりかえよう人間と地球

浜田JCSローガン
夢をビジョンに行動に

1990年度



第33代理事長
亀谷 克幸

日本JCSローガン
時代はJC
自立したひと・まち・ところで
日本づくり

浜田JCSローガン
時の鼓動、歴史の礎
・・・勇気ある創造の継承・・・

1991年度



第34代理事長
森脇 良孝

日本JCSローガン
素敵な風を あなたから創ろう
まちの物語

浜田JCSローガン
学ぼう 先人の英知を
語ろう 故郷の未来を
創ろう 新たなる人の輪を

1992年度



第35代理事長
佐古 肇徳

日本JCSローガン
夢をかたちにまちづくり
歌おう地球の応援歌

浜田JCSローガン
共感集団で夢開発を
ーグッドヒューマン
カントリーをめざしてー

1993年度



第36代理事長
城市 正人

日本JCSローガン
さわやかな汗で笑顔の星づくり
輝けまちの地球市民

浜田JCSローガン
聞こえませんか地域のささやきが
おこしませんか行動を!
ー自然体そして真剣味ー



歴代理事長

1994 - 2008

1994年度



第37代理事長
川神 裕司

日本JCSローガン
続けよう発言と行動を
始めよう新しい生き方を
今地球市民が世界を変える

浜田JCSローガン
きらめく未来へ夢発信
拓こう郷土の新時代

1995年度



第38代理事長
松尾 明

日本JCSローガン
育もう新しい地球市民
進めよう自己改革
思いやる心が未来を創る

浜田JCSローガン
如実知自心
「笑顔あふれる地域を目指して」

1996年度



第39代理事長
江木 修二

日本JCSローガン
絆を生かし たすけあい
創ろう愛ある 新人間社会

浜田JCSローガン
創造・実践
「夢を子どもたちに 郷土愛を行動に」

1997年度



第40代理事長
平野 義弘

日本JCSローガン
おこせ!小さなデモクラシーの風

浜田JCSローガン
「あっ!」感動・行動
-こころかようまちづくり-

1998年度



第41代理事長
佐々本 正昭

日本JCSローガン
確立しよう「心のスタンダード」!
行動しよう コア世代!!

浜田JCSローガン
心 人間社会の実践
「こころを育てる まちが変わる」

1999年度



第42代理事長
永井 敏雄

日本JCSローガン
「地域は動く 日本は動く」
今こそ動こう われら地球市民!

浜田JCSローガン
SCRAP & BUILD
【私は動く LOMが動く 地域も動く】

2000年度



第43代理事長
茶田 宥勝

日本JCSローガン
若くはつらつとした日本へ
エトパスノイエス
新しいことを始めよう!!

浜田JCSローガン
因果必然
～一年の計は元旦に有り
千年の計は本年に有り～

2001年度



第44代理事長
柏村 英男

日本JCSローガン
「新世紀へのCOMMITMENT」
今、Jayceeが日本を拓く

浜田JCSローガン
「大知」の時
- 体感、今を生き抜く -

2002年度



第45代理事長
段原 良則

日本JCSローガン
時代を超えて時代を創る
今、始まる「新JC創世記」

浜田JCSローガン
Breakthrough
- 熱い情熱を持って -

2003年度



第46代理事長
和田 浩

日本JCSローガン
新次元への Breakthrough!
「日本改新」
～誇り高き、人の時代へ～

浜田JCSローガン
一燈照隅
～一人ひとりが夢の輪を広げよう!～

2004年度



第47代理事長
久保田 英治

日本JCSローガン
大きな環と小さな環とが響き合う
「スローソサエティ」の実現へ

浜田JCSローガン
中央突破
ひとりひとりの英知を結集し
まちをひとを変えよう

2005年度



第48代理事長
田中 和実

日本JCSローガン
"JC New Generation"
新たな日本の夢に向かって

浜田JCSローガン
Creative Power
ショートリストに生き残れ!
ロングヒットに突き進め!

2006年度



第49代理事長
碓矢 和人

日本JCSローガン
"精神ルネッサンス"
真の自立国家「美しき日本」
の創造に向かって!!

浜田JCSローガン
Let's Do It Together
みんなで協働し、みんなで共創る
新市の未来

2007年度



第50代理事長
岡田 久

日本JCSローガン
「日本の力」発信!
理想国家日本の創造に向けて!

浜田JCSローガン
やればできる! 熱い情熱を持って!
～誇りを持って行動しよう～

2008年度



第51代理事長
宮田 智裕

日本JCSローガン
高い志と使命感による
ローカルコミュニティー復活!
「気高き日本」の創造!

浜田JCSローガン
思い、伝え、行動するJC
～地域の価値を見出し、
まちの自立にむけて～

2009年度



第52代理事長
畑岡 匡

日本JCSローガン
やさしくあるためにつよくあれ！
リアリティと説得力を伴う
「JCプライド」の実践！！

浜田JCSローガン
感奮興起
～熱き思いが未来を変える～

2010年度



第53代理事長
伊原 憲吾

日本JCSローガン
“陽はまた昇る”
地域を照らす光明たれ！

浜田JCSローガン
実践躬行
～郷土の未来のために
率先して行動しよう！～

2011年度



第54代理事長
善田 知紀

日本JCSローガン
徳溢れる心が未来をつくる
ともに歩もう 新たなる飛躍へ！

浜田JCSローガン
前進
～地域と人をつなぎ、
確かな一歩を踏み出そう～

2012年度



第55代理事長
永田 博幸

日本JCSローガン
呼び覚ませ
日本のプリンシプル！

浜田JCSローガン
Best Performance
～やるなら今しかないっ！～

2013年度



第56代理事長
谷尾 幸

日本JCSローガン
新しい時代への燈火となれ！

浜田JCSローガン
誠心
～思いやりの心で人とひとをつなごう～

2014年度



第57代理事長
高野 公愛

日本JCSローガン
取り戻せ、日本の矜持を！

浜田JCSローガン
勇往邁進
～魅力あるいわみプライドの発信～

2015年度



第58代理事長
中村 洋平

日本JCSローガン
美しく先駆けよう！
すべては未来を生きる人のために

浜田JCSローガン
水天一碧
～ひたすら郷土の未来の為に～

2016年度



第59代理事長
大迫 正明

日本JCSローガン
強く 優しく しなやかに
あらゆる価値の根源となれ！

浜田JCSローガン
照千一隅
～きらきら輝く未来に向けて～

2017年度



第60代理事長
遠藤 祐之

日本JCSローガン
自己成長を求め「日本道を歩もう」
「日本を変えるのはオレたちだ!!」

浜田JCSローガン
自他共栄
～明るい豊かな浜田の実現～

2018年度



第61代理事長
浅津 伸行

日本JCSローガン
感謝の心を以て、誠を尽くそう
～限りなき可能性を信じて～

浜田JCSローガン
Seize The Day
～未来を変えるのは、今の自分の行動だ～

2019年度



第62代理事長
櫛山 太介

日本JCSローガン
共に心躍る未来へ
「やりましょう！」

浜田JCSローガン
責任
～ここで生きる～

2020年度



第63代理事長
名田 勝之

日本JCSローガン
真実一路 軌跡を紡ぎ、
奇跡を起こそう！

浜田JCSローガン
知覚動考
～共に夢を語り、挑戦しよう～

2021年度



第64代理事長
森脇 翼

日本JCSローガン
Idea & Action
光を放つ起点となろう！

浜田JCSローガン
千変万化
～変化を恐れず～

2022年度



第65代理事長
筆坂 寿之

日本JCSローガン
愛が、希望に変えていく。

浜田JCSローガン
雲外蒼天
～未来を『今』から変えていこう～

2018



第61代理事長
浅津 伸行

浜田JCスローガン

シーズ ザ デイ
Seize The Day

～未来を変えるのは、今の自分の行動だ～

日本JCスローガン

感謝の心を以て、誠を尽くそう ～限りなき可能性を信じて～

基本方針

1. 創立60周年記念式典及び祝賀会、記念講演の実施
1. 浜田の将来を担う青少年の育成
1. 魅力ある組織への強化と人財育成によるLOMの発展
1. 会員の拡大

はじめに

本年は、7月の西日本豪雨をはじめ、島根県内においても4月に発生した島根県西部地震、7月豪雨災害など自然災害が多発し、多くの方が被災され、また犠牲になりました。いづれどこで発生するか分からない自然災害の怖さを改めて思い知る事となりました。また、スポーツ界におけるパワハラ問題や、森友・加計学園問題等の政治不信に繋がりがねない問題、そして米国の発端とする自国第一主義が世界へ広がり国際協調の陰りが見え始めるような問題など、様々な問題が浮き彫りになった年でもあったと思います。一方で、平昌冬季オリンピックでのカーリング女子代表やスピードスケート、羽生選手の連覇などの日本選手団の活躍、ロシアW杯での日本代表の決勝トーナメント進出、全米テニスでの大坂選手の優勝など、スポーツの世界での日本の活躍には、感動と勇気を与えられました。そのような中、私達、(一社)浜田青年会議所は、「Seize The Day～未来を変えるのは、今の自分の行動だ～」のスローガンのもと、一年間、運動、活動を展開してまいりました。

(一社)浜田青年会議所創立60周年について

(一社)浜田青年会議所は、今年度、創立60周年を迎える事が出来ました。6月17日(日)、「with PRIDE～熱き想いを行動に～」のスローガンを掲げ、創立60周年記念式典・祝賀会を執り行い、ご来賓の皆様方、OB会員の先輩諸兄の皆様、県内外各地青年会議所メンバーなど、241名にご参加いただきました。多くの先輩諸兄が繋いで来た熱い想いと行動の成果により、この日を迎える事が出来たことに感謝の念を抱くと共に、これからの5年、10年に向けて新たなスタートを切る事ができたと実感しております。

11月17日(土)には、(株)ジャパネットたかた創業者の高田明氏を講師としてお招きし、テーマ「夢を持ち続け

日々精進」で、創立60周年記念講演を、多くの浜田市民の皆様方にご参加いただく中、開催することが出来ました。高田氏のご自身の経験からの講演には、勇気や元気をいただくことができ、改めて、今を力強く生きることの大切さを学ぶことができました。互例会、4月例会委員会タイムにおいて周年への気運の醸成、周年記念ゴルフコンペの開催、7月例会での慰労、記念誌発行と、周年に関する活動を一年通じて行いました。毎年開催されております万灯山イルミネーション点灯式では、開府400年を連想できるパネルを設置することで、2019年の年に向けて連想できる内容のものとなりました。

社会開発への取組みについて

少子高齢化や過疎化といった課題を多く抱える浜田市において、私達、(一社)浜田青年会議所は、この地域における社会開発を率先して行うべき団体であると考え、今年度は、働き方改革についての取組みと、第2回高校生政策甲子園の開催をすることが出来ました。働き方改革については、3月例会委員会タイムで基礎を学び、6月例会委員会タイムで(有)高浜印刷の渡邊氏を講師としてお招きし現在実施されている取組みを学ぶ事が出来ました。9月例会委員会タイムでは、THE CREATIVE CENTERというゲームを通じて課題解決に向けた発想力などを学ぶことが出来ました。第2回高校生政策甲子園では、今年度も浜田高校、浜田商業高校、浜田水産高校の3校の生徒の皆様にご発表をいただきました。いずれの発表も素晴らしく、最優秀賞を獲得された浜田水産高校の発表は、高校生の目線から考えた水産業への考え方が分かりやすく反映されたもので興味深い発表となりました。また今回は、島根県立大学の学生による発表も行い、会場も島根県立大学で開催したこともあり、浜田にある島根県立大学と地域の高校の接点をより感じる良い機会となりました。大名行列奴隊につきましても、浜田市が2019年に開府400年を迎えることもあ

り、保存・継承・発展の役目を担ってきました私達にとって、大切な一年となりました。浜田市の無形民俗文化財の登録を目指し活動をして参りました。今年度の認定にはなりませんでしたが、前進できた一年であったと思います。

組織強化と人財育成について

組織は、所属する一人ひとりの「個」の集まりであり、組織の強化・成長には、個人の成長は必要不可欠であり、個々が切磋琢磨し成長する中で、情報共有を積極的に行い、協力し事業を行っていき達成感を共有する、そのことが組織の強化に繋がっていくと思ひ、今年度、様々な事業を通じ活動を行いました。5月例会委員会タイムでは、ロバート議事法を学び、模擬理事会を通じて実体験をし、メンバー個々のレベルアップを図ることが出来ました。8月例会委員会タイムでは、日本サッカー協会の影山雅永氏を講師としてお招きし、「私が考えるマネジメント」のテーマで公開例会を開催しました。U-19日本代表監督としてW杯の話も交えながらの講演は、当日参加頂いた外部参加者含め、参考になる良き機会となりました。会員スピーチでは、「私のやる気スイッチ」という題目で各メンバーがスピーチを行い、スピーチ力の向上を図る事で個々の成長に繋げる事が出来たと思います。広報活動については、FacebookとInstagramを活用し、今年度の活動をPR出来る内容となりました。

例会や総会の運営を的確に行うことをはじめ、今年度は、各種大会に多くのメンバーで参加できる工夫や取組みを行って頂いたこともあり、メンバー同士の交流も図ることができ、LOM内の結束力を高めることができた一年となりました。

会員の拡大について

今年度、8名の卒業生を輩出することになり、当初より会員拡大について、積極的に取り組む事が大切な一年でした。手法として、2月、10月例会委員会タイムにおいて、拡大手法について学び、3月には久保田市長を講師としてお招きし異業種交流会を開催し、また8月例会の懇親会を異業種交流会として開催しました。

結果としましては、4名の拡大に繋げる事が出来ましたが、目標数に達することが出来なかったことは、反省

が残る点であります。60周年を迎えた今年度でしたが、今後5年、10年と当会が継続して、青年会議所の運動や活動を行っていくためにも、更なる会員拡大は必要であります。次年度にしっかりと引き継ぎ、確実な拡大活動に繋げていきたいと思ひます。

結びに

今年度、創立60周年という節目の年を迎え、改めて、私達、(一社)浜田青年会議所は多くの皆様方に支えられている事を知る事が出来た良き一年となりました。その中で、現役LOMメンバーが、個人のレベルアップを図りながら、互いに切磋琢磨し、青年会議所の運動、活動に取り組んで頂いたことに、感謝と誇りを感じております。歴史ある(一社)浜田青年会議所第61代理事長として、重責を感じながらも、「今」を大切に行動した一年であり、私の人生の中でも大変貴重で、たくさんの事を学ぶ事が出来ました。青年会議所は、家族でもなく、仕事でもなく、古くからの友人同士の集まりでもない、今、ここでしか出会えない仲間と目標に向かい努力することで、成長することができる大切な場所でもあります。2019年度もメンバーの皆様がこの場所で切磋琢磨されることを切に願っております。今年度、行政及び関係各所の皆様方、服部OB会長をはじめとされますOB会の先輩諸兄の皆様、そして一年間、(一社)浜田青年会議所の活動を作っていただいたメンバーの皆様にご心よりの感謝を申し上げます。2019年度も引き続きご支援、ご協力を賜ります事をお願い申し上げ、2018年度の事業報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

互例会

JCスイッチ ～新たなスタート～

2月例会

みんなを始めよう会員拡大！

3月例会

「働き方改革」で中小企業はどのように変化すべきか？

4月例会

「周年とは」

5月例会

ロバート議事法について学ぶ

6月例会

「働き方改革」を考える

7月例会

2018年折り返し地点

8月例会

「私が考えるマネジメント」 講師：影山 雅永 氏

9月例会

発想力と想像力が明るく豊かなまちづくりの動力源

10月例会

入会Q&Aシートをつくる！

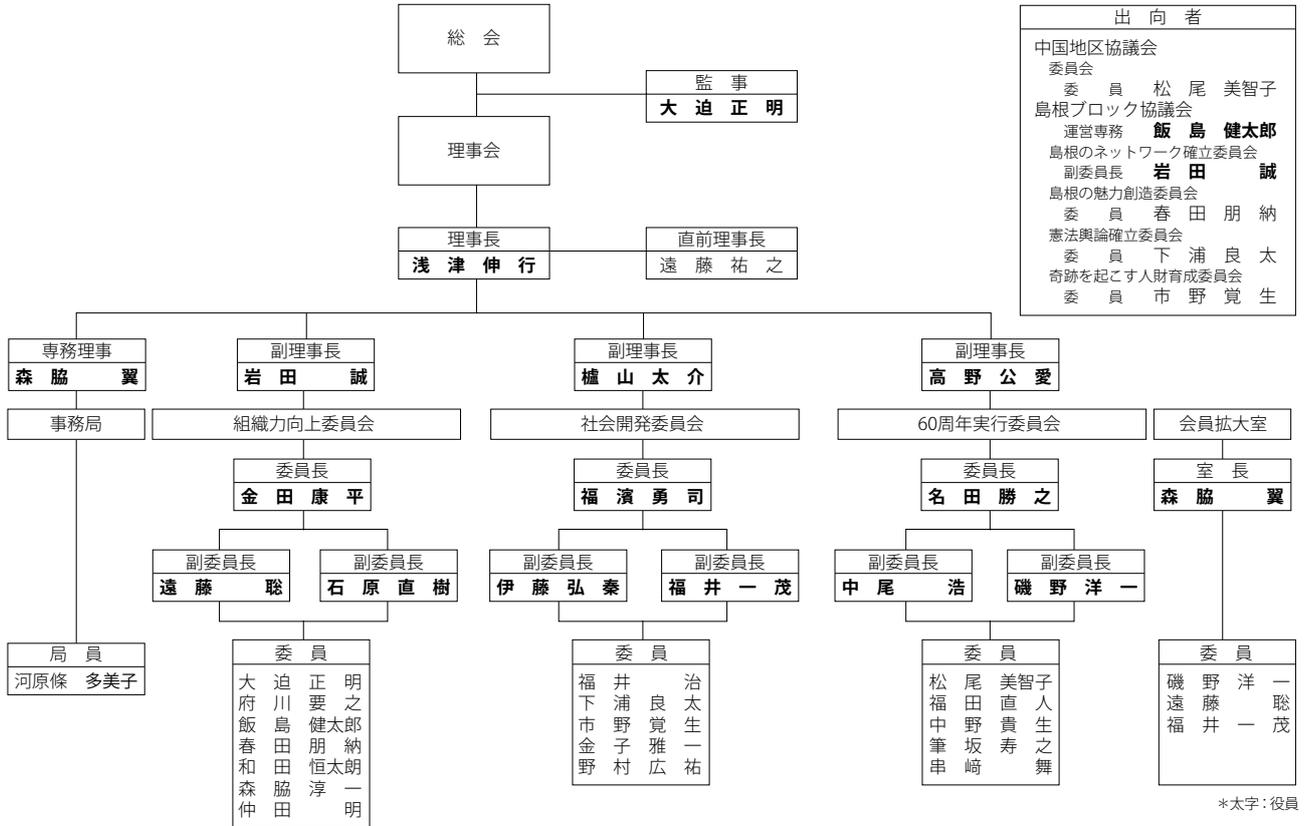
11月例会

～卒業生タイム 想いをつなぐ～

12月例会

2018年度の締めくくり

2018年度 一般社団法人 浜田青年会議所 組織図



3月例会 (100%例会)



京都會議



市長表敬訪問



異業種交流会



友好JC交流事業(浜田市)



浜っ子春まつり(大名行列奴隊)



創立60周年記念ゴルフコンペ



創立60周年記念式典



60周年実行委員会 委員長挨拶



第2回 高校生政策甲子園



創立60周年記念講演



卒業式・終了式

2019



第62代理事長
樋山 太介

浜田JCスローガン

せき^{せき}にん
責任

～ここで生きる～

日本JCスローガン

共に心躍る未来へ『やりましょう！』

基本方針

- 1. 営業的手法を取り入れた会員拡大
- 1. 新入会員定着への取り組み
- 1. 地域と医療を結ぶ取り組み
- 1. 高校生政策甲子園の開催
- 1. 確実な組織運営
- 1. 迅速で正確な活動情報を発信

はじめに

2019年は平成の時代が変わり新元号は令和となり、新しい時代の幕開けとなった年でした。天皇陛下が存命中に退位されるのは202年ぶりで、昭和天皇が逝去され平成天皇が即位された時よりも明るい祝賀ムードの中での即位でした。そして、ラグビーワールドカップ日本大会の日本代表の躍進と日本中の盛り上がりや日本の企業の研究者がノーベル賞を受賞するなど、明るい話題もありました。しかし、日本では過去に経験のない程の大型の台風の被害で、東日本を中心に甚大な被害が出て、改めて日本の災害大国だという認識と地球温暖化の影響を感じた年でもありました。

営業的手法を取り入れた会員拡大

昨年度8名の卒業生を送り出し近年にない少人数でのスタートとなり、会員拡大を最重要課題として取り組んで参りました。二回の交流会を実施し、拡大対象者へのアプローチを試みましたが今年度は3名に留まりました。失敗の要因としましては理事長である私が熱意をメンバーに見せることができず、浜田青年会議所として、メンバー全員の拡大の意識を持ってもらうことができなかったことによる、対象者への接触回数の少なさが大きな要因であると思います。しかし継続して組織的な勧誘を続けるべきであり、拡大委員会は必ず必要だと思いません。

新入会員定着への取り組み

「青年会議所は会員にとって成長の機会を与える場で

なければならない。そして会員はその成長を地域に還元しなければならない。」という私の考えであり、そこから、途中退会者を出すことは退会者が地域への貢献活動から遠ざかる事を意味し、地域への損失を真剣に取り組まなければならないと思います。今年度は新入会員定着のために「メンター制度」に取り組みました。この制度は現役メンバー一人をメンター（相談役）として新入会員一人を担当し新入会員の浜田青年会議所での悩みの相談などに対応し、新入会員の孤立を無くし、退会を防ぐことを目的としました。今年度は途中退会者が1名出てしまいましたが、退会理由はやむ終えないものであり、今後もこの制度を定着させることは必ず浜田青年会議所の為になると思います。

地域と医療を結ぶ取り組み

地方の医師不足が問題となっている中、浜田には浜田医療センターという総合病院が浜田地域の医療の中心を担っています。しかし浜田医療センターも医師不足問題の例外ではありません。これからは医療に対しても我々市民は医療サービスを受ける側だけでなく医療を支えることがもっと重要になってきます。

そういった状況の中、市民と浜田医療センターを繋ぐイベントが「浜田駅北医療フェスタ」です。そこに我々も参加して地域と医療を結ぶ為に取り組みました。当日は医療フェスタの今後の為に来場者にアンケートを実施しその結果を実行委員会へ提出しました。

高校生政策甲子園の開催

2017年から始めた「高校生政策甲子園」は浜田の将

来を担う高校生に市政を考えるきっかけにする事業として浜田市内の高校3校をはじめ行政、その他関係各所のご協力を得ながら過去2回開催しています。今年も第3回高校生政策甲子園を開催しました。浜田高校3チーム浜田商業高校1チーム浜田水産高校1チームの合計5チームが出場しました。結果は水中ロボットを使った浜田の海の観光を提案した浜田水産高校が最優秀賞を受賞しましたが、災害の時の校舎の活用や、空家のシェアハウスの提案など高校生の若い発想がたくさん詰まった発表がありました。そのあとには発表した高校生と審査員や来場した市役所の職員の皆様と懇談する場を設け、発表の内容について質疑応答するなど、参加した高校生にも有意義な時間となりました。高校生政策甲子園は今年度で最後となりますが、社会開発運動の一つの成功事例として今後に生かしていきたいと思えます。

確実な組織運営

青年会議所の活動には資金が必要です。その資金はほとんど会員の会費によってまかなわれています。会員の減少によって収入は減少している中で、次の青年会議所の為に基金を貯めるために今年度は(公社)日本青年会議所の財政規律を採用し、予算の執行に関して厳格に管理しました。不必要な出費は徹底的に削減し、浜田市の予算を活用し、今年度は若干の繰り越しをすることができました。定款諸規定に関しては、産休・育休制度を議論し、規定に記載する準備を進めました。

迅速で正確な活動情報を発信

我々の活動情報を発信することの目的は我々の活動を地域の皆様に知ってもらうこと、そして我々の活動に共感してもらい新しい仲間を獲得することです。そのため

には事業の質を高めることはもちろん、その事業の内容を簡単に分かり易く、迅速に発信することが大切です。今年度は総務委員会の努力により迅速な発信をすることができました。しかし、担当委員会の見えている範囲での情報の更新に留まってしまい、地域の為の活動をすべて発信することができなかったのが課題になりました。

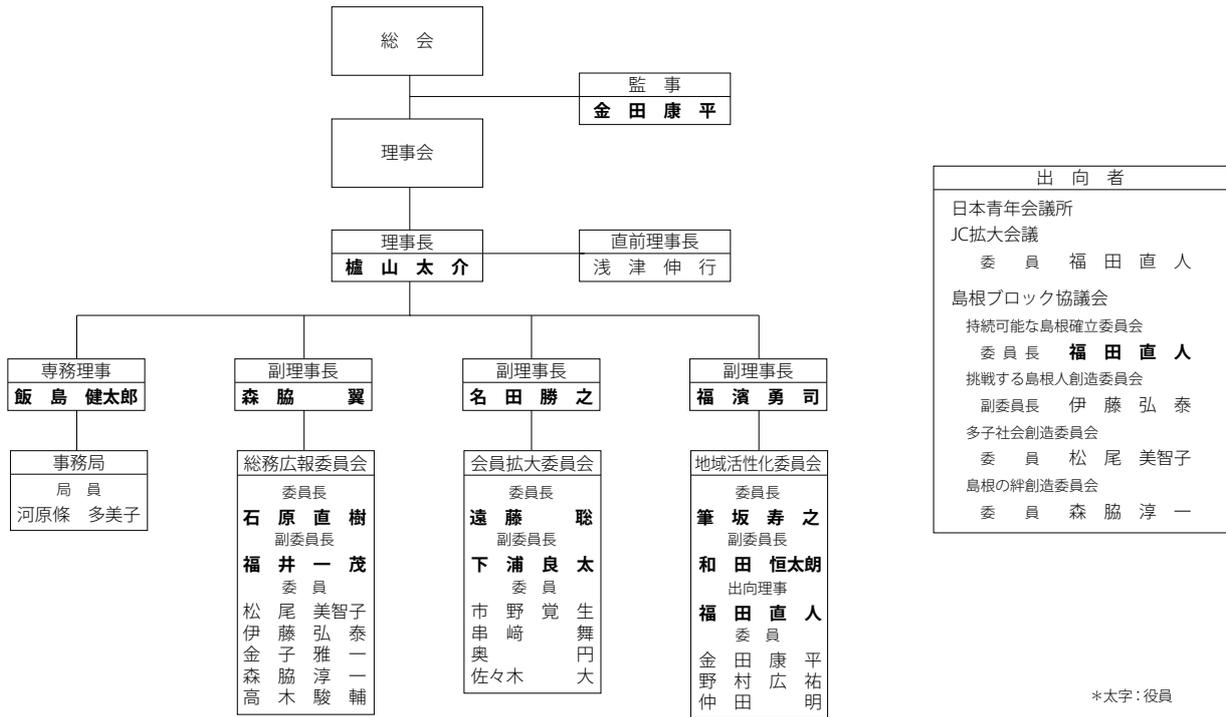
結びに

(一社)浜田青年会議所の第62代理事長として先輩諸兄が築き上げてきた功績に傷をつけないように、未来のリーダーを育てるために、そして地域の為に、一年間努力を続けてまいりました。今年もこの一年間、現役メンバーはたくさん、悩み、傷つき、困難にぶつかりました。それを乗り越え、なんとか一年を終えることができました。この一年間を終えるとわかるのがこの一年の様々な反省点やよかった点です。このことがこの先の人生に役に立つときがきっと来ると思えます。そして私は人の成長は出会った人の数と乗り越えてきた苦労の数に比例すると考えています。青年会議所はこの二つを一所懸命やればやるほど提供してくる組織だと思えます。これから浜田青年会議所の今後もメンバーにこの二つを提供できる組織でありたいと思えます。

一年間本当にありがとうございました。

互例会 2019新たなスタート	7月例会 「持続可能な開発目標と地域の取り組み」 講師：豊田 智世 氏
2月例会 OB総会同時開催	8月例会 「PRの本質を知り、実践していくために」 講師：尾上 玲円奈 氏
3月例会 初対面の相手と信頼関係を築くには	9月例会 意識向上！セルフコントロール！！
4月例会 SDGsとは	10月例会 「ビジョンの大切さ」 講師：澁谷 幹雄 先輩
5月例会 大名行列奴隊の歴史と今後に向け	11月例会 次世代へのメッセージ
6月例会 「JCで得たもの」	12月例会 2019年度の締めくくり

2019年度 一般社団法人 浜田青年会議所 組織図



「浜田大名行列奴」浜田市無形民俗文化財に登録



浜っ子春まつり(大名行列奴隊)



島根ブロックスポーツ大会(松江市)



友好JC交流事業(三原市)



異業種交流会



7月例会(講師：豊田 知世 氏)



南日本海ネットワーク会議(浜田市)



8月例会(講師：尾上 玲円奈 氏)



市長表敬訪問(高校生政策甲子園の開催にあたり)



第3回 高校生政策甲子園



萩時代まつりに参加



卒業式・終了式

2020



第63代理事長
名田 勝之

浜田JCスローガン

ちかくどうこう
知覚動考

～共に夢を語り、挑戦しよう～

日本JCスローガン

真実一路 軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう！

基本方針

- 1. 会員へ機会を提供できる組織の確立
- 1. 効率的な組織運営
- 1. Jaycee 覚醒
- 1. 自己成長のための会員拡大

はじめに

2020年度に始まった新型コロナウイルスを起因とするパンデミックは、私たちに不安と恐怖を与え、現在も世界規模で社会的、経済的に危機をもたらし続けています。当たり前の日常を奪い、これまでの価値観を覆す常識が通用しない時代を迎えた一年間でありました。(一社)浜田青年会議所でも活動の自粛を余儀なくされ、生命の安全と経済の再生のどちらを優先すべきであるのか難しい選択を余儀なくされました。4月には、政府による緊急事態宣言の発令というこれまで経験したことがない事態を前に、だれもが正解がわからない混沌とした時代であったと思います。私はこんな時代だからこそ、青年会議所の原点を見つめ直し、知覚動考～共に夢を語り、挑戦しよう～のスローガンのもと、私たち自身の手で明るく豊かな社会を実現するために、一年間、運動、活動を展開してまいりました。

会員へ機会を提供できる組織の確立

2020年度は、能動的な人材になるべく会員の意識改革と自己成長を第一に考え、あらゆる機会を提供できる組織の確立を目指しました。しかし、全国各地で新型コロナウイルスが3月より猛威を振るい、当会の活動も自粛を余儀なくされ、会員一人ひとりが当初思い描いた理想と現実に悩んだ一年だったと思います。2020年度は、伝統文化継承を目的とした大名行列奴隊の演技披露、浜田市の若者がワンチームとなるべく他団体との交流会、青年会議所に入会しなければ出会うことができなかつた島

根県内LOMとの交流会や友好JC事業、LOM内での更なる絆を深めるため参加予定だった各種大会など、多くの学びの機会を実施することは出来ませんでした。活動の原点である「青年会議所は何をすべき組織であるのか」を改めて一人ひとりが考え抜く良き機会になったと思います。この学びの機会を忘れることなく、常に己に問いかけ続けることが大切であり、今後も会員へ発展と成長の機会を提供できる組織であるべきだと切に願います。

効率的な組織運営

時代は私たちの想像を超えるスピードで変化し、地域では高齢化社会が進み、人口減少や生産人口減少による人手不足により会員が職場においてプレーヤーとなる時間が増える事で、青年会議所活動を行う環境は厳しくなる一方です。今後も持続可能な活動を行うためには、限られた時間を有効に活動できる効率的な組織へと変革を起こして行かなければなりません。新型コロナウイルスは、私たちの当たり前の日常を奪いましたが、一方で新しい組織の在り方を考え直す機会を与えてくれました。当会でも、理事会をWEB会議で実施、例会をハイブリッド方式で開催し新たな組織運営に挑んで参りました。デジタルを活用することで、移動時間の削減や出席率の増加、また会場費の削減などメリットも期待できる一方で、会議の生産性や対面で会うことによる会員同士の絆の構築が難しいなど今後の改善点も浮き彫りとなりました。今後は、変わりゆく時代への変化対応能力が必要であり、過去の形式にこだわり続けることなく、時代に即した柔

軟であり開放的な組織を目指すべきだと考えます。

Jaycee 覚醒

私たちの使命は、JCI MISSIONに示してあるように「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために発展・成長の機会を提供すること」です。2020年度は、多様な価値観を持った会員で構成される組織が地域の変革のために最大限の力を発揮するために、改めて原点を見つめ直し、私たちの存在意義を明確にし、皆が同じ方向に進むための事業を計画して参りました。日本青年会議所が行っているセミナープログラムガイドを活用し、青年会議所の意義や目的など組織に関する知識やマインドを学ぶ機会を提供したいと考えましたが、結果として新型コロナウイルスの影響で事業は実施する事ができませんでした。しかし、新型コロナウイルスにより活動を自粛する中で、一人ひとりが「今、私たちが地域に何ができるのか」と考え抜いた結果、浜田市内の小中学校へ感染予防対策として非接触型体温計とリーフレットの寄贈や、飲食関係者の支援のために前払式支配手段である「どんちっち未来チケット」事業を展開することができました。私の指示ではなく、会員自ら立ち上がり地域のために事業を実施できたことは、第63代理事長としての誇りであり、一人ひとりがJayceeとして覚醒してくれた結果だと私は考えます。

自己成長のための会員拡大

より良い地域を創るためには、より良い人材を一人でも多く生み出すことが必要です。青年会議所では、役職を全うする事で体験できる責任感や組織や人を動かすマネジメント能力など活動を通じて様々な成長の機会を与えてくれます。2020年度末には30名体制での組織確立を目指し運動を展開して参りましたが、2名の新入会員獲得に留まりました。拡大が成功しなかった最大の要

因は、理事長である私の熱量が圧倒的に足りなかったことだと考えます。会員拡大は青年会議所が持続可能に活動できるために最も大切な運動です。まずは、対象年齢の調査を実施し、勧誘前の関係性の構築が重要であり、青年会議所が地域に対して何を提供できる組織であるのか知っていただく広報活動の実施、地域に変革を与える運動を通して共感を生み出すことが会員拡大成功の一步であると考えます。

終わりに

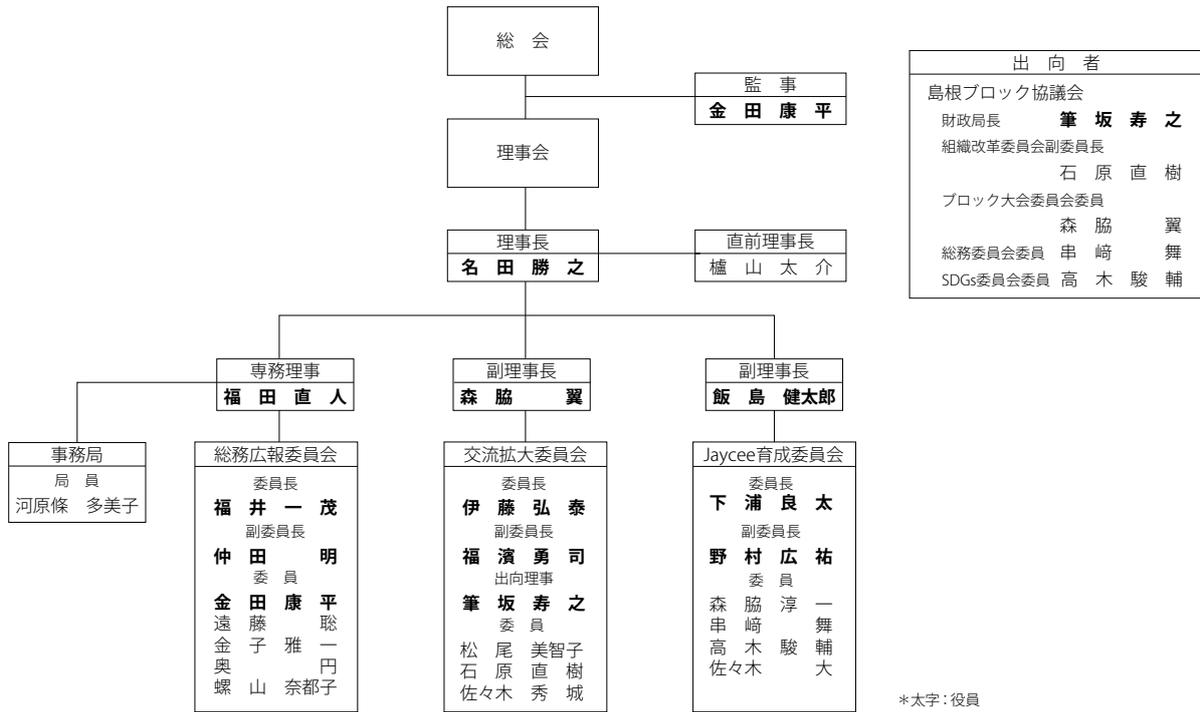
歴史と伝統ある(一社)浜田青年会議所の第63代理事長として、名に恥じぬよう自覚と責任を感じ邁進してまいりましたが、幾つかの失敗と会員拡大が成功しなかった事実は理事長としての私の責任です。皆様へお詫びを申し上げると共に、誠に申し訳ございませんでした。2021年度は、(公社)日本青年会議所中国地区島根ブロック協議会の会長として、会員の皆様へご負担をお掛けすることになると思いますが、圧倒的な行動力を基軸にチャレンジし続け、(一社)浜田青年会議所の更なる飛躍に向けて邁進して参ります。

最後となりますが、行政及び関係各所の皆様方、服部OB会長をはじめとされますOB・OG会の先輩諸兄の皆様、そして一年間共に行動を起していただいた会員の皆様に心より感謝を申し上げます。2021年度も引き続きご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。2020年度の事業報告とさせていただきます。

うまく行かない世の中を誰かのせいにはしない
地域の未来を誰か何とかしてくれると思わない
ただ、願っているだけで私たちの未来は変わりません
願った夢は必ず手にすることができるかと私は強く信じています
一年間、本当にありがとうございました。

互例会 new beginning～新たな始まり～	7月例会 出向の魅力
2月例会 定款、諸規定の活用	8月例会 青年会議所における背景とは？
3月例会 島根ブロック会長公式訪問(コロナの影響で5月に延期)	9月例会 拡大交流会
4月例会 コロナの影響で例会中止	10月例会 浜田青年会議所の進むべき道
5月例会 コロナの影響で例会中止	11月例会 浜田JCの今年度から次年度へ
6月例会 事業紹介タイム	12月例会 2020年度の締めくくり

2020年度 一般社団法人 浜田青年会議所 組織図



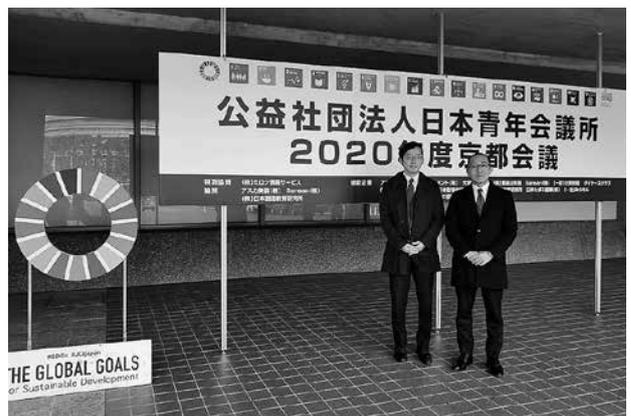
互例会 (100%例会)



市長表敬訪問



奉仕5団体親睦交流会



京都会議



2月例会(定款、諸規定の活用)



コロナ関連体温計寄贈プロジェクト



コロナ関連応援プロジェクト



7月例会(講師：高野 公愛 先輩)



9月例会(拡大交流会)



2021年度 ブロック会長予定者挨拶



卒業式・終了式



第120回 定時総会

2021



第64代理事長
森脇 翼

浜田JCスローガン

せんべんぼん か
千変万化

～変化を恐れず～

日本JCスローガン

Idea & Action 光を放つ起点となろう！

基本方針

1. 社会開発事業の実施
1. 組織改革と人材強化
1. 確実な組織運営と情報発信
1. 出向によるJayceeとしての成長
1. ブロックスポーツ大会の実施
1. 拡大のための拡大からの脱却

はじめに

2021年度、不肖ながら理事長職をお預かりさせていただきました。そして、「千変万化～変化を恐れず～」のスローガンの下、このコロナ禍を契機とし、我々青年会議所は何を求められているのか、何をしなければならないのかを考え直し、環境の変化に合わせる柔軟さと強かさを持つ心意気で、活動、運動に取り組んでまいりました。

社会開発運動への取り組み

3月24日(水)、(一社)浜田青年会議所は、以前より模索してきた公立大学法人島根県立大学と「包括的連携に関する協定」を締結しました。これは、当会が2017年度から2019年度まで取り組んだ社会開発事業「高校生政策甲子園」のときから、事業の運営に加わってもらう、基調講演をいただく等、学生を事業に巻き込み、大学との連携を模索していたものを、1つの形にしたものです。そして、この協定を基とした具体的な事業として、10月30日(土)と11月13日(土)の日程で島根県立大学の学生と地元企業を結び付ける社会開発事業「Connect with Hamada」を、新型コロナウイルス感染症の影響により完全Webとはなりましたが、実施することができました。参加した学生からは、「企業の人と直接話をする機会は少ないので大変有益であった」という意見、地元企業からは「SNSを使った広報戦略の提案が若者の発想で大変参考になった」という意見の他、双方から多数の意見をいただきました。また、参加した学生に対する事業前アンケートでは、就職について「浜田市内で考えている」学生は0%でしたが、事業後アンケートでは「浜田市の就職も視野に入った」学生が71.4%となりました。さらに、参加した地元企業に対する事業後アンケートでも、「学生に対する見方が変わった」企業が83.3%となり、「現実的な提案力が評価できる」「自社に対してここまでの提案をしてくれるとは思わなかった」という評価を得ることができました。これらの意見やアンケート結果からも、まだ事業としては小さいかもしれ

ませんが、所信にも掲げた県立大学と地元企業と連携し、それら結び付けて若者が浜田市に残るきっかけを与える公益事業を構築することができたと言えます。そして、この事業を第一歩として、引き続き若者にとって魅力的な、持続可能なまちをつくるための運動に発展させることができればと思います。

浜田市長選挙公開討論会

10月8日(金)、浜田市長選挙の立候補予定者をパネリストとしてお招きし、公開討論会を実施しました。今年度、当初の事業計画には含んでおりませんでした。現職に対し新人候補が立候補表明し、選挙戦となることがわかり、歴史資料館整備の是非といった市民の関心が高い争点もあったこと、そして何より、青年会議所としてまちのために何ができるかを考えた結果、急遽ではありましたが、事業を実施することにしました。前回、当会が開催した8年前の事業に関わった先輩方からもアドバイスをいただき、また、3月24日(水)に県内他LOMが実施した出雲市長選挙の公開討論会の内容も参考としました。当日は、事業中に想定外のことも起こりましたが、ケーブルテレビによる生放送を視聴した市民の方々や先輩諸兄からは「よくやった」とのお言葉をいただくことができました。選挙の投票率こそ、前回と比較して上昇はしなかったものの、近年稀にみる大接戦となったことから、もしこの事業が市民の方々の政治意識を高めるきっかけとなったのであれば幸いです。なお、事業報告はしっかり残し、4年後以降も当会が公開討論会を実施できるよう、つなげていきたいと思っております。

伝統文化継承への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、浜っ子春まつりが事前収録、ケーブルテレビによる春まつり当日の特別番組放映となりました。具体的には、4月25日(日)に、ふれあいジムかなぎのグラウンドにて大名行列部隊の撮影を実施、それが他のパレード参加団体の映像と共に編集され、放映される形となりました。また、放映当日は生放送

ということで、私も含めメンバー3名で奴隊の衣装を着て参加し、スタジオで「箱」の実演や練習内容について説明を行う機会をいただきました。練習を中止せざるを得なかった昨年度から、今年度は練習ができ、そして例年と形式は異なるものの、映像による演技披露となったことから、事業目的で掲げる「保存」「継承」を達成できたと考えます。また、この2021年度時点の大名行列奴隊の演技を「映像資料」として記録できたことは、当初想定していなかった成果であり、浜田市無形民俗文化財としての大名奴隊行列を未来につなぐ「発展」となったのではないかと思います。今後も、練習、演技披露といった「保存」「継承」はもとより、何が「発展」につながるのか、模索を続けていきます。

組織改革と人材強化

今年度は、取り巻く環境に応じた柔軟な組織の構築を所信にも掲げておりましたが、従来に増してメンバーが様々な事業に主体的に関わってくれたと感じています。後述のブロックスポーツ大会実行委員会のように、自分たちのメイン事業が中止された後も他委員会のフォローをしっかりとやり遂げ、さらには今後の当会のことを考えた委員会タイムを構築してくれるメンバーの姿がありました。また、諸事情で欠けたメンバーの役割を、他のメンバーが分担して埋めてくれる姿もありました。これは、メンバーが各々の部門、階層でなすべきことを理解した上で、全ての事業に主体性を持って参画するという意識を持ってくれたことの証左ではないかと思います。今後とも、当会の事業を通して、圧倒的な主体性を持って行動し、運動を引き起こせる人材をつくっていききたいと思っています。

確実な組織運営と情報発信

2021年度、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の時代に合わせ、当会では完全Web環境での例会開催や、オブザーバーの委員会タイムへのWeb参加等、Web環境の活用を進めてまいりました。また、特にホームページ、SNSによる情報発信については、(公社)日本青年会議所の広報担当委員会からも高い評価をいただく内容となりました。引き続き、このコロナ禍にあって目立つ事業を構築するのが難しいところではありますが、日々の活動内容、地道に取り組む運動内容をわかりやすく発信することで、当会が活気づき、当会の運動、活動への認知をより高めていきます。

出向によるJayceeとしての成長

2021年度は、当会より島根ブロック協議会会長を輩出し、それに伴い運営専務、事務局長、会長補佐といった運営団も出向させていただきました。所信にも掲げたとおり、この出向者輩出自体が、当会にとっての1つの大きな事業となりました。ブロック大会やアカデミー事業、Web上での交流事業といった事業だけではなく、会員会議所会議等の諸会議の設営を担当すること、LOMとは別に協議会の運営に携わることで、当会の事業だけでは得ることのできない成長の機会を、メンバーに対していただけたのではないかと思います。そして何より、他LOMのメンバーと共に1つの事業に携わり、作り上げることは、その事業の計画から実施に至るまで異なった手法を学び、異なった発

想を得るよい機会となったのではないのでしょうか。これら出向メンバーが各々の出向先から成長して戻り、出向先から多くの経験を持ち帰ってくれることで、当会全体の成長、活性化にも寄与するものと確信しています。

ブロックスポーツ大会の開催

当初、5月30日(日)に我々(一社)浜田青年会議所が主管となり、第47回ブロックスポーツ大会を浜田の地にて開催する予定でした。しかし、当時の新型コロナウイルス5感染症の感染拡大状況を考慮し、参加される県内各地LOMのメンバーの安全確保が困難と判断し、苦渋の決断ではありましたが、大会を中止させていただきました。ブロックスポーツ大会実行委員会メンバーは、事前の大会PRも含め、ほぼ事業の準備を終えており、あとは実施するだけという段階まで来ていたこともあり、対外の関係各位はもちろん、委員会メンバー、LOMメンバーにも大会実施の機会を与えることができなかったことをお詫びいたします。しかし、所信にも掲げておりました「そのプロセス自体にJayceeとしての成長がある」のとおり、中止後の事後処理だけではなく、その後もテーマを変えながら、社会開発事業や次年度の中期ビジョン策定にもつながる委員会タイムを構築していただき、委員会メンバーが確実に成長していることを実感できました。次回のブロックスポーツ大会は、再度浜田での開催ではなく、他LOMに主管が移ることが決まっています。しかし、今回準備したことはきっちり議案として残し、いずれまた当会に主管が回ってくるタイミングにも生かしていきます。

拡大のための拡大からの脱却

誰かがやるという他人事ではなく、組織全体が主体性をもって会員拡大に取り組むことを目指し、年度初めの互例会では会員拡大会議も開催し、取り組んでまいりました。しかし、年度を通して仮会員こそ抱えたものの、入会に結びつけることができませんでした。これは、コロナ禍もあり、事業や例会に仮会員やリストアップ対象者を巻き込みにくかったという外因もありますが、最終的には何より私自身の会員拡大に対する熱量の不足という内因によるものと言わざるを得ず、ここにお詫び申し上げます。しかし、後日談とはなりますが、先述の社会開発事業「Connect with Hamada」の参加企業から、社員を入会させてみてよいとお話も上がり、当初所信に掲げた「まちづくり」「ひとづくり」に関する公益事業により人を引き寄せ、巻き込み、魅力を感じてもらうことから会員拡大を目指すべきとの考え方は、1つのアイデアとして間違っていないことを確信しました。また、今年度の事業により、社会開発事業を実施したという実績を手に入れたことにより、評価の高かった情報発信、広報も継続して進め、今後は拡大対象者への説明もしやすくなったと考えます。今年度こそ成果は上がりませんが、引き続きこの1年間が無駄にならないよう会員拡大を進め、多様性のある持続可能な組織を構築していきます。

終わりに

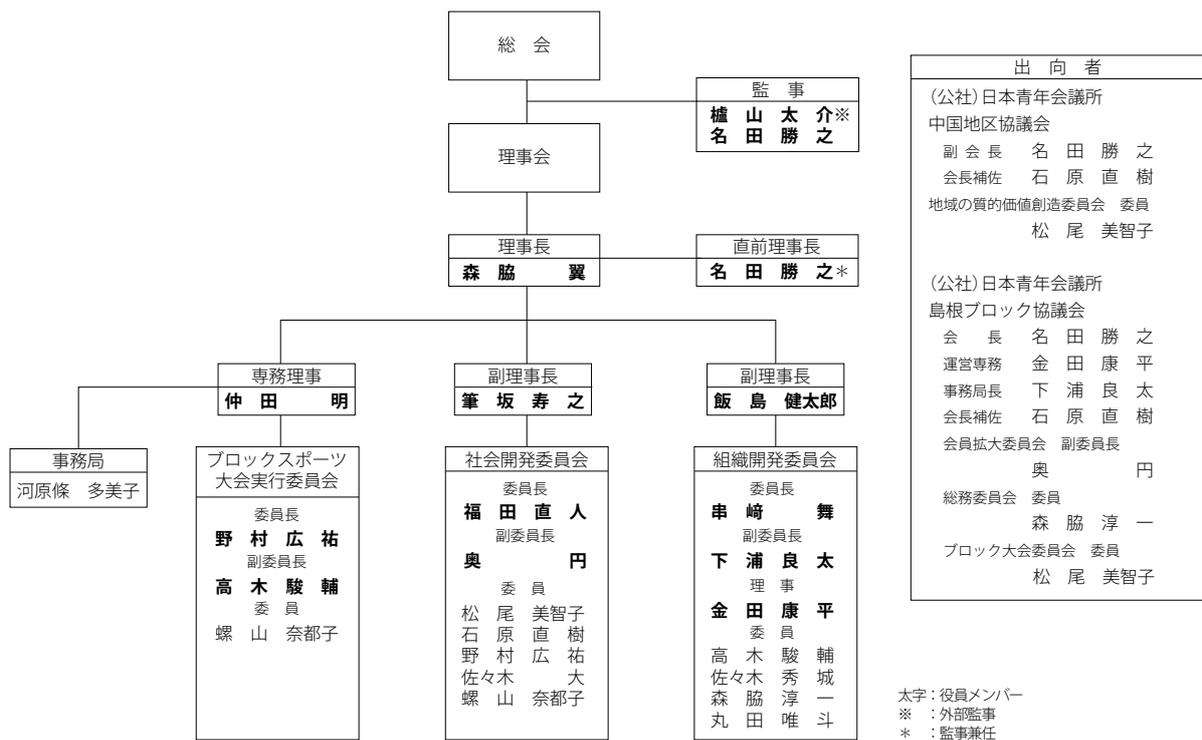
2021年度は、スローガンにもある「千変万化～変化を恐れず～」のとおり、様々な状況に対応していくことを意識したつもりではありましたが、事業運営は決して順調に

は進みませんでした。途中で収束に向かうと考えていた新型コロナウイルス感染症も、依然として収束に至っていません。その影響もあり、会員拡大等、明らかに失敗とも言える事業もありました。ブロックスポーツ大会等、中止せざるを得ない事業もありました。そして、2021年度が終わってみると、結果として、退会者があったことから人材的にも減員となり、財政的にも正味財産を大きく減少させる結果となりました。それらの点については、最終責任者として大変申し訳なく、重ねてお詫び申し上げます。しかし、社会開発事業や広報事業といった、地域に影響を与え、メンバーに貴重な経験を残すことができた事業も多くありました。メンバーに加えて関係各位のご協力もあり、コ

ナ禍で共益事業向きがちな事業内容を思い切って公益事業に振って、このまちの人々から期待されること、このまちのために取り組むべきことを考え、我々（一社）浜田青年会議所の今後の方向性や存在意義を明確にできた2021年度でもあったと思います。次年度には、改めて中期ビジョンの策定も控えておりますが、これら事業実績を確実に継承し、引き続き我々の存在意義を問いつけ、一人ひとりが当事者意識、主体性を持ち、変化を恐れず未来に向かって活動、運動を展開していきたいと思っております。2022年度も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。2021年度の事業報告とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

互例会 会員拡大会議	7月例会 浜田市長の権限について
2月例会 浜田市の現状とこれから～人口減少について考える～ 講師：島根県議会議員 須山 隆 氏 浜田市議会議員 三浦 大紀 氏	8月例会 納涼例会
3月例会 ブロックスポーツ大会決起集会	9月例会 ダイバーシティを考える
4月例会 円滑なコミュニケーションの極意	10月例会 若者とのつながりの重要性 講師：魅力化コーディネーター 大地本 由佳 氏
5月例会	11月例会 卒業生タイム
6月例会 アクティブシブズンフレームワーク	12月例会 2021年度の締めくくり

2021年度 一般社団法人 浜田青年会議所 組織図





2月例会(講師:須山 隆氏、三浦 大紀氏)



社会開発事業「島根県立大学との包括的連携に関する協定締結式」



浜っ子春まつり(大名行列奴隊 撮影)



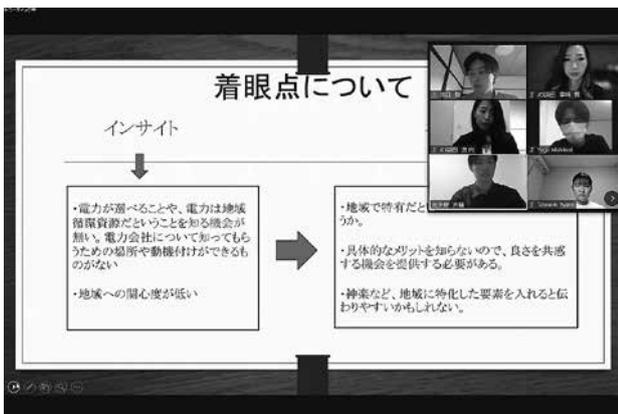
社会開発事業「Connect with HAMADA」(県大生との打ち合わせ)



浜田市長選挙公開討論会(開催の告知動画)



10月例会(講師:大地本 由佳氏)



社会開発事業「Connect with HAMADA」



卒業式・終了式

2022



第65代理事長
筆坂 寿之

浜田JCスローガン

うんがいそうてん
雲外蒼天

～未来を『今』から変えていこう～

日本JCスローガン

愛が、希望に変えていく。

基本方針

1. 地域を繋げる先駆者へ
1. 会員の成長と継続的な会員拡大
1. 挑戦する組織改革
1. 新たな中期ビジョンの策定
1. 共に成長する友好JC

はじめに

本年は一昨年から続く新型コロナウイルスの蔓延、元首相の銃殺事件、物価の高騰、そして今尚続くウクライナとロシアによる戦争と国内外において大きな情勢の変化、私たちの生活にも影響が及ぶ出来事も数多くありました。一年間を振り返ると暗い出来事も多かったですが、新型コロナウイルスによって大きく変化した生活様式は徐々に以前の状況に戻りつつあります。浜田市においても2022石州浜っ子夏祭りが2年ぶりに開催され、多くの市民の皆様が笑顔と地域に明るい光が差し込んだ瞬間でした。

(一社)浜田青年会議所はこの大きく変化する情勢や環境の中、5つの基本方針を掲げ地域の未来のために今できることを考え模索しながら、活動・運動を展開して参りました。

地域を繋げる先駆者へ

少子高齢化が急速進む地域に対して、若者の定着とそのため地域の繋がりや創生するために2021年から引き続きConnect with HAMADAを本年度も開催いたしました。協力していただいた企業様、それぞれの課題に対して大学生が取り組み、発表では新しいアイデアや若者らしい意見も聞かれました。その意見は浜田青年会議所の組織の在り方や広報の参考となることも多くありました。この機会を通じて企業と大学生が互いの必要性に気づく一つのきっかけになったと感じています。しかし、現実には大学をはじめ浜田市の多くの魅力を地域に住

む私達が十分に活かしていないのが現状です。私自身も本事業を通じて、急速に加速する人口減少問題に取り組むために地域全体としてその魅力に気づき、そして活かし発展させていく必要があることを再認識いたしました。

会員の成長と継続的な会員拡大

本年度、浜田青年会議所は会員16名でスタートしました。会員拡大の目標として12名を掲げておりましたが、結果は7名の入会と目標を達成することはできませんでした。12月末時点で20名と実数としては4名の増加となりましたが、卒業生が本年度いなかったことを考えると物足りない数字であることは否めません。その理由として私自身が新たな会員を入会に繋げることができなかったこともその大きな要因だと考えております。発信する立場の者がリーダーシップを発揮するためには実績をあげることが必要だと考えます。私自身はもとより会員一人ひとりが意識を共有し、今後も永続事業である会員拡大に取り組んで参ります。

挑戦する組織改革

本年度も2021年から引き続き猛威を奮う新型コロナウイルスの影響により事業開催の可否や諸会議の開催方法など不透明な未来に組織として柔軟な対応を強いられました。しかし、急な変更や修正が多かったからこそ、それぞれが『今できること』を考え、迅速な判断や運営・設営面での精度も向上し、組織として大きく成長できたことを実感しております。

また、組織内部において大きく変化した点は総会出欠確認のWEB化と例会資料のペーパーレス化を行ったことです。紙面を用いないことで、経費削減や会員への周知や確認を効率化することができました。また、諸会議で必要となる事業計画の資料作成は夜間作業することも多いことから過去事業をWEBクラウドに保存し、会員がいつでも確認できるように変更しました。事務局の就業時間にとらわれず、自身の時間に合わせて作業が行えることで時間の有効活用へと繋がりました。

新たな中期ビジョンの策定

本年度は『中期ビジョン2022』の検証と5年後へ向けた『中期ビジョン2027』を作成しました。『中期ビジョン2022』の検証では会員へ浸透不足、各年度の方向性に課題が散見されました。そのため『中期ビジョン2027』ではスローガン『Realize (リアライズ)』を掲げ、三つの重点項目として『まち、組織、Jaycee』を設け、『幸せ』をキーワードに会員はもちろん地域の皆様にも伝わりやすい形を考えました。創立65周年を迎える2023年には新たなビジョンを皆様するとともに決意を新たに一貫性のある青年会議所活動・運動を推進して参ります。

共に成長する友好JC

本年度は友好JC締結40周年を迎え、5月22日には浜田の地にて手絆式を執り行い、互いに今後の関係性継続を誓いました。当日は友好JCも3年ぶり開催し、組織や会員それぞれが交流を通じて関係性を再構築する機会となりました。友好JCは単にLOM間だけでなく、会員間の互いの情報交換や考え方を知り、成長できる貴重な機

会です。先輩諸兄弟が築き上げてきた絆をさらに強固なものとなるよう今後も絆を育み、LOMの発展に繋げて参ります。

終わりに

今私達は以前にも増して未来の予測が困難で大きく変化しうる時代に生きています。こうした時代に理事長を務めさせていただいたからこそ、本当に多くの皆様に支えられていることを実感しました。特に会員の皆様には多く学びと協力をいただき、感謝の気持ちしかありません。理事長という責任ある職務は今後の私自身にとっての大きな誇りとなりました。この誇りを持ち続け、これからも地域の未来のために邁進して参ります。

結びにこの歴史ある一般社団法人浜田青年会議所の第65代理事を務めさせていただいたこと、1年間無事に終えることができましたことは偏に皆様方のご支援、ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。浜田青年会議所創立65周年を迎える2023年度も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。2022年度事業報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

互例会

2022年度事業方針・事業計画

2月例会

コロナの影響で委員会タイム中止

3月例会

人命救助について

講師：浜田市消防本部 職員

4月例会

若い我らクイズ

5月例会

SDGs とユニバーサルデザイン

6月例会

過去を知り、未来につなげるまちづくりができる組織になろう

講師：宮田 弘 先輩

7月例会

中期ビジョン2022検証タイム

8月例会

コロナの影響で委員会タイム中止

9月例会

Connect with HAMADAに向けて

10月例会

考えよう、故郷のまちづくり

講師：入川 秀人 氏

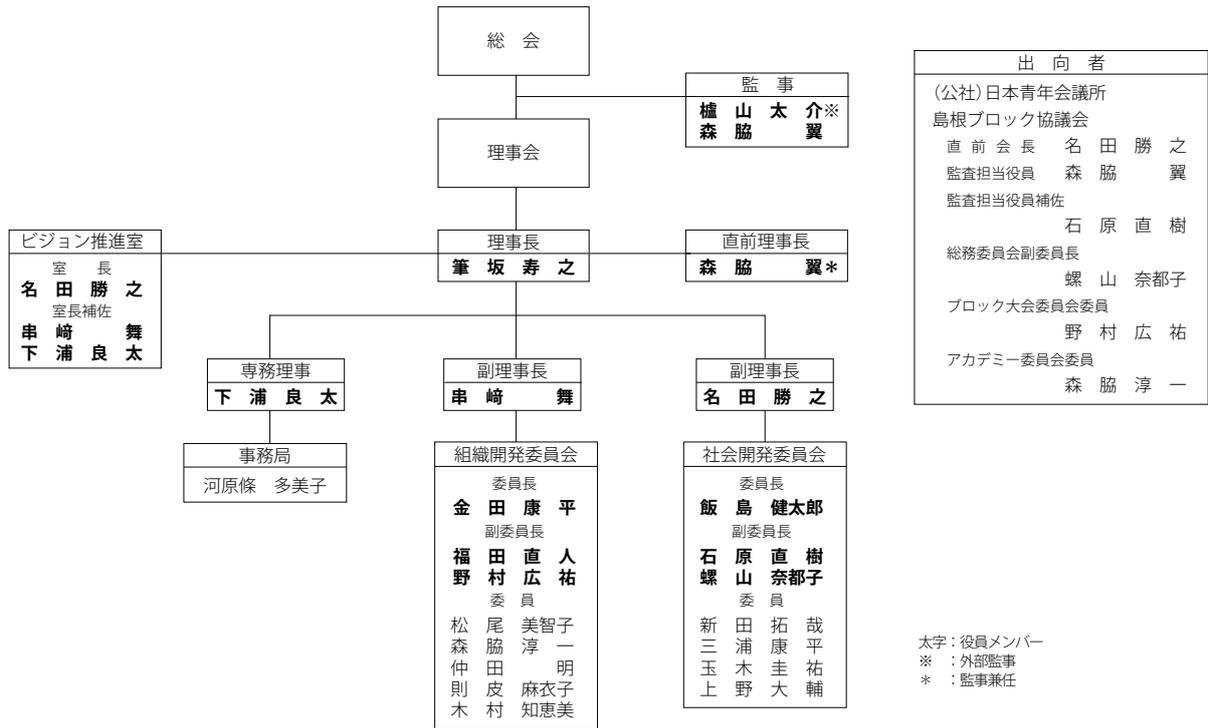
11月例会

中期ビジョン2027の発表

12月例会

終了式・祝賀会

2022年度 一般社団法人 浜田青年会議所 組織図



1月互例会 (Zoomにて開催)



3月例会 (講師：浜田市消防本部 職員)



浜っ子春まつり (大名行列奴隊 撮影)



友好JC交流事業 (手絆式)



友好JC交流事業(浜田市)



島根ブロックスポーツ大会(大田市)



島根ブロック大会(益田市)



6月例会(講師:宮田 弘 先輩)



7月例会(中期ビジョン2022の検証タイム)



10月例会(講師:入川 秀人氏)



社会開発事業「Connect with HAMADA」



終了式・祝賀会



今年度事業紹介

2023



第66代理事長
串崎 舞

浜田JCスローガン
ワン ハート
One heart

～幸せな未来のために～

日本JCスローガン

Drive our dreams 日本の魅力で世界を席卷しよう

基本方針

- 1. 浜田青年会議所65周年について
- 1. LOMの成長と発展にむけて
- 1. ふるさとの愛を育む運動
- 1. 未来へ繋ぐ会員拡大

はじめに

私は2018年に浜田青年会議所へ入会致しました。広島からUターンをし、独りで始めたエステサロン。毎日お客様を綺麗に輝かせることが楽しく、やりがいを感じながら仕事をしていました。しかし、漠然と独りで経営する寂しさや不安、地域の方と関わることがなくせっかく地元で起業したのだから何か地域貢献できることはないだろうかと感じていた矢先に舞い込んだ出会いでした。この出会いは私に沢山の経験と仲間との時間、真剣に浜田市の未来について考えるきっかけと使命感を与えてくれました。

新型コロナウイルスの蔓延によって当たり前の生活や活動が出来なくなった時、貴重な経験の機会を失くしてしまったことは否定できないと思います。しかし我々はどんな時でも歩みを止めずに出来ることを考え行動してきました。まだまだ終わりの見えないコロナウイルス。その影響による景気の低迷や、円安、物価の高騰、ロシアのウクライナ侵略など暗いニュースばかりが目立ち、私達の住む浜田市の課題もより深刻化していくことと思います。しかし、今こそ仲間とひとつになり課題に立ち向かうことで少しでも未来を明るくすることができると信じています。

私は更に浜田青年会議所初の女性理事長という貴重な機会をいただきます。今後の可能性を切り開き、メンバーひとりひとりの素晴らしい個性をより輝かせることで浜田市の未来だけでなく、浜田青年会議所の成長・発展を担って使命感を持って邁進する所存です。

浜田青年会議所創立65周年について

1958年5月16日 初代玉川舜一郎理事長を初めとされますチャーターメンバーの熱き想いと、(公社)松江青年会議所様の力強い支えにより、全国で146番目のLOMとして浜田青年会議所は誕生し本年度創立65周年を迎えることとなります。今、私たち現役メンバーが浜田青年会議所で活動できるのも、先輩諸兄姉が繋いで来られた熱き想いと、率先してまちづくりやひとづくりを実践し続けて来られた弛まぬ努力の積み重ねによるものであります。浜田青年会議所の歴史を紡いで来られた先輩方へ敬意を表すとともに、これまで多大なるご支援とご協力をいただいた多くの方へ感謝を伝え、想いを受け継ぎ、中期ビジョン2027と共に今後の運動への新たなスタートを切ります。

昨今新型コロナウイルスによる事業や懇親会等の自粛などで先輩諸兄姉の皆様との関わる機会も減ってしまっています。今一度先輩方へは現役メンバーの今後の運動への決意に共感をいただき、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

〔LOMの成長と発展に向けて〕

我々、青年会議所のメンバーは年齢も性別も仕事場も違う20歳から40歳までの青年により形成される組織です。集まった青年がより効果的な青年会議所運動を行うためには、会員同士が強い絆で結ばれ、組織として魅力溢れる団体へと進化し続けなくてはなりません。それには、会員個人の成長はもちろん青年会議所の意義や魅力を広く伝搬し意識を共有し組織力をより強固なものにしていく必要があります。それぞれが支え合い、励まし合いながら様々な事業や日々の活動の中に多くの機会を創

出し提供することで今後の青年会議所や地域を担う人材を育成します。

会員数の減少に伴い今後のLOMの存続も危ぶまれる中、メンバーひとりひとりが危機感と自覚をもって存続はもちろん、成長、発展へと足並みを合わせ取り組みます。

ふるさとの愛を育む運動

浜田青年会議所は様々な運動を行ってまいりました。我々に求められていることは何なのかを考え、本年度も地域の現状を再認識し時代に適したかたちで浜田市を持続可能な地域にするための事業を行ってまいります。

コロナ禍で失われたものは何なのか… 考えた時、1番に子供達の笑顔が浮かんできました。マスク生活を強いられ、様々な楽しい行事も満足に行えず、楽しいはずの給食の時間も友達と向かい合うことすらできず、我慢ばかりの3年間。おうち時間が当たり前となりインターネットやゲームに費やす時間が急速に増え、地域や人との関わりは希薄化していると考えられます。

そんな子供達に少しでも笑顔になって貰えることがしたい。そしてこの浜田市の素晴らしさを伝えたい。子供達の記憶の中にふるさとの魅力と誇りを残すことができるような事業を実施しまちや人との繋がりや郷土愛を醸成します。郷土愛を持った子供達は都会に出て地元を離れても、地元に戻りたい。地元で貢献したい。という想いを持ってくれるはずです。その想いは持続可能な地域を作る為の大切な架け橋となるのではないのでしょうか。

子は地域の宝です。地域を巻き込み、子供達だけでなく我々の運動で親世代や地域の心をも動かし自分達のまちに愛着を持ち、まちのために汗を流そうと考える市民を増やし、青年会議所の輪を広げていきたいと考えています。

未来へつなぐ会員拡大

青年会議所運動を実りあるものにするためには会員拡大は必要不可欠です。会員拡大を行わなければ浜田市の未来を考えて行動する人が減少し、組織としても活動力や発信力が低下し持続可能な地域や組織を造るために運動していくことが難しくなります。今一度会員拡大の目的をメンバー全員が理解し意識することで持続的な会員拡大へと繋げていきます。

また、会員拡大をする上で認知のための広報、ファンづくりのための広報も必要になります。

私達の運動を知ってもらい、理解、共感を得て、共に活動したいという想いを持ってもらえる魅力溢れる発信を続け、地域を想い共に行動する仲間をひとりでも多く迎え入れ続けることで浜田青年会議所が持続可能な組織となり、明るい豊かな浜田市の創造に繋がることを信じて活動していきます。

終わりに

本年度は65周年を通して仲間と感動を分かち合い、より友情を深め新たな目標に向かってスタートを切る大切な1年となります。志を同じくすること=心をひとつにすること「One heart」をスローガンに掲げました。独りではできないことも仲間と同じ目標に向かって行動すること、自分とは違う仲間の価値観も認め合い、改めて繋がりを強化し困難に立ち向かうことで強靱な組織へ成長を目指していきます。

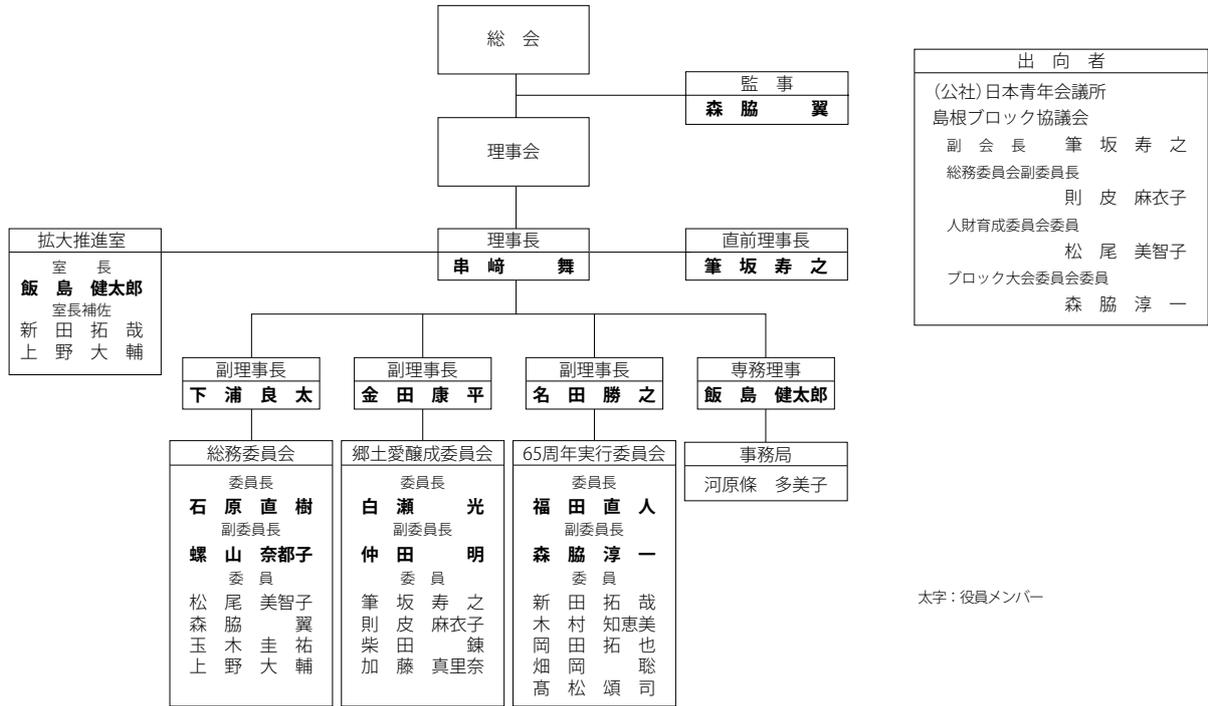
ひとりひとりが他者を思いやり、手を差し伸べ、自らを成長させ、他者の幸せを願い、大切な人、家族、仲間、すべての人々に温かな幸せな未来が訪れるよう共に行動し続けましょう。

最後に、皆様には今後も弊会へのご理解とご協力そしてご支援ご指導を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

1月23日	互例会	新たな始まり
2月22日	2月例会	65周年をOne heartで臨むために
3月22日	3月例会	JAYCEEとして
4月24日	4月例会	ふるさと教育
4月29日	浜っ子春まつり	
5月21日	第49回ブロックスポーツ大会(出雲市平田町)	
5月22日	5月例会	65周年を成功させるために
6月 3日	創立65周年記念ゴルフコンペ	
6月 4日	創立65周年記念式典・祝賀会	
6月18日	第49回島根ブロック大会(出雲市)	
6月22日	6月例会	
7月24日	7月例会	次の周年に向けて

8月 4日	創立65周年記念事業 講演会	「夢を追いかけて挑戦の舞台へ」
8月22日	8月例会	例会の設営
9月17日	友好JC交流事業	
9月22日	9月例会	水産学習セミナー
9月23日	創立65周年記念事業	「Colorful splash イカした仲間とイカした思い出」
10月23日	10月例会	育LOMについて学ぼう
11月22日	11月例会	卒業生タイム
12月 9日	卒業式・終了式	
12月15日	12月例会	One heartの締め括り

2023年度 一般社団法人 浜田青年会議所 組織図



浜っ子春まつり(大名行列奴隊)



2月例会(100%例会)



浜っ子春まつり(奴隊メイク体験)



島根ブロックスポーツ大会(出雲市平田町)



(一社)三原青年会議所との記念撮影



2023年 モルック体験



調印式

友好JC提携時の経緯

- *1982年の基本方針に「友好JC提携」を掲げた。山陽側との友好、情報交換により、浜田LOMメンバーに意識改革を促し、ひいては地域経済を活性化させたいとの目的であった。
- *1982年6月19日 森脇厚博第25代理事長が三原JCに友好JC提携を打診する。
- *1982年11月22日 浜田へ真嶋理事長以下多数の三原JCメンバーを迎え調印式を行う。
- *友好相手として三原JCを選んだ理由
 - 1 駅前開発を完成された。
 - 2 瀬戸のインターチェンジとして交通問題に取り組んでいる。
 - 3 対外広報誌「やっさもっさ」は全国褒賞を受けている。
 - 4 三原やっさ踊りは観光事業として成功し、発展を続けている。
 以上の観点から、浜田JCがこれから取組まなければならない事業にとって、まさに先進地としてふさわしい。
(25周年記念誌より)

5年間のあゆみ

- 1982年11月22日、浜田の地に真嶋理事長をはじめとされる三原青年会議所メンバーをお迎えし、記念すべき友好JC調印式が執り行われてから今年で41年を迎えることとなりました。今日までこの友好関係を築き上げられた両LOMの先輩方に対し、心から敬意を表し感謝申し上げます。
- 2019年 三原 ターゲット・バードゴルフ大会
 - 2020年 新型コロナウイルス感染拡大により中止
 - 2021年 新型コロナウイルス感染拡大により中止
 - 2022年 浜田 友好JC提携40周年記念式典
手絆式
ブラインドサッカー体験
 - 2023年 三原 モルック体験



長期・中期ビジョン

長期ビジョン

2030

シートピア浜田 実現に向けて

海の持つ恵み、無限の可能性を
大いに利用する海洋文化都市
人々の自己実現が世界一可能なまち
広域視点に立った、南日本海の中核都市
市民一人ひとりが責任を持ち、助け合い、
仕合わせを実現できるまち

長期運動指針

「八右衛門s運動」の推進

基本理念

「八右衛門s運動」を通じての
シートピア浜田実現に向けた各種事業展開



「八右衛門s運動」とは・・・
・会津屋八右衛門の精神をもとに、浜田のまちを愛し、自らの知恵と行動と責任でまちをつくれる市民の育成
・自らの仕合わせと併せて、他の仕合わせを考え行動できる市民の育成

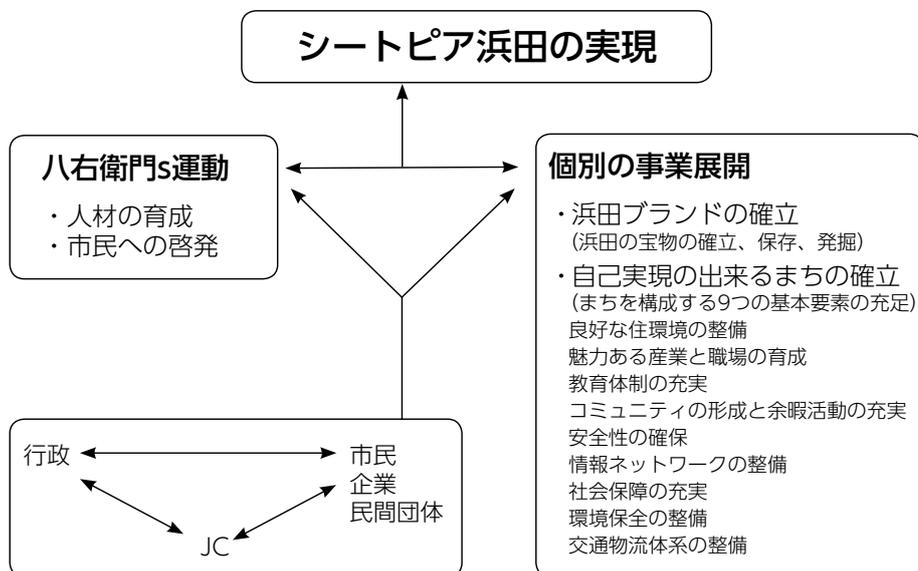
シートピア浜田実現に向けての行動

「シートピア浜田実現に向けて」は、海を中心に、この地域の特性・可能性・問題点等を、十分に見据えて考えて行く必要があります。しかしながら、最も必要な事は、どの様な計画や行動が起こるにしろ、市民が無関心であれば何もならないのではないのでしょうか。これからのまちづくりは、市民一人ひとりのまちに対する意識と責任が不可欠なのです。

現在、国の行財政改革に伴う中央集権体制から地域主権体制へ移行していく中で、大幅な規制緩和・撤廃及び市町村合併等により、めまぐるしく世の中は変わって行くでしょう。これらの変化は今までの私たちの生活を一定水準以上保障する仕組みから、より自由且つ責任を持って生活して行く仕組みへの移行なのです。自らの生活やまちの在り様を自由に選択できる事は、非常にすばらしい事に思えますが、一方では、常に自分自身に責任を持って行動しなければ、誰も自身の事を保障してくれない社会なのです。つまり、それぞれのまちの将来も、「そのまちの事は、そのまちに住む住民自身で…」という事になるのです。

そのまちに住む住民の意識以上の まちは絶対に出来ない!

自らの生活やまちの将来を、ただ行政や特定の団体、指導者に委ねているばかりではいけないのではないのでしょうか。自らの知恵と行動力、自己責任と共生の心が、これからの世の中にとって最も重要であると言えるのではないのでしょうか。



中期ビジョン 2027 | Realize

【3つの重点項目】

これからの5年間で実現していく未来

(1)まち	幸せの連鎖が溢れるまちの実現 ■協働によるOne team浜田づくり ■意識醸成による一人ひとりが主体となるまちづくり ■地域資源を活用した新たな価値を生み出すまちづくり
(2)組織	幸せの起点となる組織の実現 ■まちのために動く組織への進化 ■ムーブメントを起こす組織への進化 ■まちに最も必要とされる組織への進化
(3)Jaycee	人々を幸せにできるJayceeの実現 ■家族を幸せにするJaycee育成 ■だれよりもまちの事を考えているJaycee育成 ■時代に即したリーダーとなるJaycee育成

■中期ビジョンとは

青年会議所は、綱領に示されているように「明るい豊かな社会の実現」を基本理念としています。この「明るい豊かな社会」という言葉はそのものが具体性を持っているのではなく、その具体的なあるべき姿は、時代や社会情勢に応じて常に変化をしていくものとされています。

「中期ビジョン」は、時代やまちの現状に応じた、具体的なあるべき姿を示すものとなります。したがって、時代に応じて常に更新を行っていく必要があり、5年ごとに策定する必要があります。しかし、この変化の目まぐるしい時代においては、5年という期間にとらわれることなく、随時、見直しを検討していくことも推奨をされています。

■中期ビジョンと年度指針（理事長所信）の関係性、中期ビジョンの機能

「年度指針」とは、中期ビジョンに基づき、具体的な当該年度の運動指針として示されるもので、理事長所信がこれに該当します。そして年度指針に示された概要から打ち出された組織や役割をもとに、委員会や推進室の役割ごとの運動方針である「基本方針」が定められ、この方針に基づいて具体的な運動が展開されていきます。

青年会議所の組織は一年ごとに役職が変わる単年度制を採用しており、各年度に行われる運動が単発的で継続性に欠ける事となりかねません。しかし、掲げるビジョンのもとに運動を構築していくことで、連続性を持った運動展開が可能となっていきます。

■中期ビジョン 2027 ～ Realize ～とは

浜田青年会議所の中期ビジョンは、青年会議所活動が単年度制のなかでも、今後5年間の方針を一人ひとりが共有することで、メンバーが考える実現する未来に向けて策定するものです。

スローガンである「Realize（リアライズ）」とは「現実化する」・「実現する」という意味になります。掲げるビジョンは単なる理想像ではなく、実際に実現していくからこそ意味があります。まずは、私たち「Jaycee」が愛する大切な人々から幸せにし、浜田青年会議所が幸せの起点になる「組織」になることで、幸せの連鎖が溢れる「まち」を実現するために「中期ビジョン 2027」を策定致しました。



運動系図

年次	統括	福祉・奉仕活動	まちづくり運動
1958 (S33)		水害復旧	清掃活動
1959 (S34)		里親デー実施	離小島高島訪問
1960 (S35)		公園美化運動	三隅聖壇祭への援助
1961 (S36)		↓ 社会福祉施設児童球技大会	交通安全標識設置
1962 (S37)	他団体と共に推進する 市民運動	城山植樹美化運動	
1963 (S38)		↓ 雪害地訪問	
1964 (S39)		↓ 僻地校訪問	
1965 (S40)		↓ 社会福祉施設慰問	
1966 (S41)			
1967 (S42)			
1968 (S43)	10周年記念事業		花いっぱい運動
1969 (S44)			↓ 大名行列
1970 (S45)	3大継続事業 初期の時代		↓ 神楽大会
1971 (S46)			
1972 (S47)		新成人を囲む会	
1973 (S48)	15周年記念事業		
1974 (S49)		交通遺児チャリティーコンサート	最適都市モデル研究
1975 (S50)	3大継続事業 展開の時代		↓ 地域社会開発会議
1976 (S51)			
1977 (S52)			
1978 (S53)	20周年記念事業		
1979 (S54)			
1980 (S55)	3大継続事業 見直しの時代		
1981 (S56)			
1982 (S57)			
1983 (S58)	25周年記念事業		浜田川環境美化
1984 (S59)			↓ 市議会議員の定数削減運動
1985 (S60)	市民を巻き込んだ新た なるCD運動の展開		
1986 (S61)			シートピア運動 北前船・海王丸・長崎丸招致
1987 (S62)			
1988 (S63)	30周年記念事業		
1989 (H1)			
1990 (H2)	海洋文化中核都市 新継続事業展開の時代		大学誘致運動
1991 (H3)		雲仙火砕流災害義援金支援 島原JC訪問	↓ 大学発足運動
1992 (H4)			おいでよ地球ピト
1993 (H5)	35周年記念事業		↓ 国際短期大学1日体験学習
1994 (H6)			TSL調査研究 大学支援運動
1995 (H7)	地域主権を目指した市民個々の意 識改革を啓発する運動展開の時代	阪神淡路大震災人的・物的支援	↓ 海環境啓発運動
1996 (H8)			
1997 (H9)			
1998 (H10)	40周年記念事業		短大石見神楽研究会 支援事業発足
1999 (H11)			
2000 (H12)	シートピア浜田実現に向 けた八右衛門運動の推進		
2001 (H13)			
2002 (H14)			
2003 (H15)	45周年記念事業		
2004 (H16)			
2005 (H17)	八右衛門運動を市民 運動への発展に向けて		
2006 (H18)			
2007 (H19)			
2008 (H20)	50周年記念事業		
2009 (H21)			
2010 (H22)	自立型社会に向けた 「八右衛門運動」の推進		
2011 (H23)		東日本大震災人的・物的支援	
2012 (H24)			
2013 (H25)	55周年記念事業	豪雨災害支援	市長候補公開討論会
2014 (H26)			
2015 (H27)	「帰りたいふるさと」の実現 に向けた八右衛門運動の推進		
2016 (H28)			
2017 (H29)			
2018 (H30)	60周年記念事業	西日本豪雨災害ボランティア	↓ 8月例会 講演会 講師：影山雅永氏「私が考えるマネジメント」
2019 (R1)			
2020 (R2)	ウィズコロナ・アフター コロナを経ての新時代	体温計寄贈	新型コロナウイルス感染拡大により中止 どんちっちチケット発行
2021 (R3)			
2022 (R4)			10月例会 講演会 講師：入川秀人氏「考えよう、故郷のまちづくり」
2023 (R5)	65周年記念事業		

ひとづくり運動 (青少年向け)	ひとづくり運動 (一般向け)	対外広報 ビジョン	その他
	交通安全運動		
働く青少年ハイキング 新中卒就職者歓迎会			
児童サイクリングラリー			JCI益田設立、スポンサーLOMとなる
		社会開発計画・世論調査分析	
	無事故・無違反運動 長沢～田町 交通動態調査		
		社会開発計画・アンケート 対外広報紙発行	JCI江津設立、スポンサーLOMとなる
夏休み少年キャンプ 小学生写生大会			
	市民参加の各種講演会開催		
テレホン相談室			JCI三原と友好関係を締結、調印式
		対外広報紙(明日のために)発行	浜田青年会議所OB会設立
3世代ゲートボール	市民シンポジウム	よい子の標語運動 市民アンケート	
	海洋市民大学		
マリン大使 作文募集 小学生キャンプ			
			浜田フロンティアプログラム 教育講演会 浜田フロンティアプログラムⅡ
スターナイトウォーク 青少年サマーキャンプ 海少わいがや交流会	森田三郎講演一般公開例会	中期ビジョン推進会議	
親子ふれあい地引き網	まちづくりデザイン会議	ビジョン推進会議	
親子ふれあいミュージック	いのちを守るセミナー	ビジョン研究会議	
「ペットボトル怪獣」制作 ジュニアワールドゲーム	「怪獣がまちにやってきた」	ビジョン策定会議 市民アンケート	
JCかぐら塾	エコフェスタ'98	ビジョン推進会議 八右衛門s運動	
ふるさと遊び隊	環境問題啓発運動	ビジョン推進会議	
八右衛門s道場 CHIPS高校生サミット		ビジョン推進会議	
	広域合併調査・研究		
	合併意識調査アンケート	LOM ビジョン会議	
ぼくらふるさと江戸ベンチャーズ	いきいき高齢者フォーラム		
	第2回いきいき高齢者フォーラム		
	第3回いきいき高齢者フォーラム	ビジョン推進会議	
ふるさと"夢"キッズ2006(弥栄)	第4回いきいき高齢者フォーラム	LOM ビジョン会議	
ふるさと"夢"キッズ2007(金城)	第5回いきいき高齢者フォーラム	LOM ビジョン会議	
ふるさと"夢"キッズ2008(三隅)	記念講演 講師:石川 聖子氏 「地域資源を生かしたブランドづくり」		
ふるさと"夢"キッズ2009(旭)		ビジョン推進会議	
ふるさと"夢"キッズ2010(旧浜田市)	「盲導犬育成と受け入れ」	組織改革推進会議	
ふるさと"夢"キッズ2011(弥栄・金城)	「愛が伝わっていますか？」		
ふるさと"夢"キッズ2012(旧浜田市)	「自然を愛する心」		
手をつなごうプロジェクト	記念講演 講師:佐々木 剛夫氏 「ぶれないリーダーになるために」		
			全国奴まつりへの参加
「家族と一緒にお米で共育」			
		LOM ビジョン会議	
高校生政策甲子園			後継者よ頑張ろうフォーラムへの参加 山陰新幹線開通運動
第2回高校生政策甲子園	記念講演 講師:高田 明 氏 「夢持ち続け、日々精進」		第2回後継者よ頑張ろうフォーラムへの参加
第3回高校生政策甲子園			萩時代まつりへの参加
Connect with HAMADA	市長候補公開討論会		島根県立大学との包括的連携協定締結式
		中期ビジョン2027策定	
colorful splash			
記念講演 講師:森保 一 氏 「夢を追いかけて挑戦の舞台へ」			



松尾 美智子

会員番号 312 入会年度 2014年
勤務先 有限会社ホテル松尾



飯島 健太郎

会員番号 315 入会年度 2015年
勤務先 有限会社ひまわり



名田 勝之

会員番号 320 入会年度 2015年
勤務先 株式会社魚勝商店



福田 直人

会員番号 322 入会年度 2015年
勤務先 福田水産株式会社



森脇 翼

会員番号 323 入会年度 2015年
勤務先 社会福祉法人誠和会



金田 康平

会員番号 324 入会年度 2015年
勤務先 有限会社金鉄



石原 直樹

会員番号 328 入会年度 2016年
勤務先 株式会社石原製作所



下浦 良太

会員番号 330 入会年度 2016年
勤務先 株式会社シモウラ



筆坂 寿之

会員番号 337 入会年度 2017年
勤務先 河野建設株式会社



森脇 淳一

会員番号 338 入会年度 2018年
勤務先 株式会社SIGN



串崎 舞

会員番号 340 入会年度 2018年
勤務先 &.cuore



仲田 明

会員番号 341 入会年度 2018年
勤務先 お魚のなかだ



螺山 奈都子

会員番号 346 入会年度 2020年
勤務先 株式会社建匠



則皮 麻衣子

会員番号 349 入会年度 2022年
勤務先 ビックママ



新田 拓哉

会員番号 350 入会年度 2022年
勤務先 島根日産自動車株式会社 浜田店



白瀬 光

会員番号 351 入会年度 2022年
勤務先 株式会社佐々木組



木村 知恵美

会員番号 353 入会年度 2022年
勤務先 柏村印刷株式会社



上野 大輔

会員番号 354 入会年度 2022年
勤務先 有限会社浜松左工所



玉木 圭祐

会員番号 355 入会年度 2022年
勤務先 株式会社山陰合同銀行 浜田支店



岡田 拓也

会員番号 356 入会年度 2023年
勤務先 合同会社SIGN/パートナーズ



柴田 練

会員番号 357 入会年度 2023年
勤務先 有限会社クレヴァー



畑岡 聡

会員番号 358 入会年度 2023年
勤務先 株式会社畑岡建窓



高松 頌司

会員番号 359 入会年度 2023年
勤務先 浜田市役所 上下水道部



加藤 真里奈

会員番号 360 入会年度 2023年
勤務先 日本海信用金庫 東支店



浜田青年会議所 OB・OG総会

・OB・OG総会・

2023年度 役員会・総会

日時：令和5年2月24日(金)

場所：浜田ニューキャッスルホテル

役員会 18:00～

総会 18:40～

1. 開 会

1. 国旗・JC 旗に礼

1. OB・OG会長挨拶：江木 修二 会長

1. 議題の採択

* 第1号議案…事業報告並びに決算承認に
関する件

* 第2号議案…現役65周年に関する件

* 第3号議案…OB・OG会発足40周年に
関する件

* 第4号議案…その他

1. 閉 会

OB役員名簿(令和4年2月改選)

役 職	氏 名	卒業年度
顧 問	岩 谷 百合雄	昭和59年
会 長	江 木 修 二	平成10年
副 会 長	山 田 恵 一	昭和63年
//	森 脇 良 孝	平成6年
//	永 井 敏 雄	平成11年
相談役	宮 田 弘	昭和50年
//	福 井 伸 夫	昭和63年
事務局長	畑 岡 匡	平成23年
監 事	佐々木 良 二	平成13年
//	久保田 英 治	平成17年
幹 事	文 野 隆	昭和54年
//	教 重 静 雄	昭和55年
//	梅 村 洋	昭和56年
//	下 村 洋 一	昭和56年
//	大 川 清 志	昭和57年
//	石 田 和通人	昭和57年
//	小 原 誠	昭和60年
//	中 束 多久夫	平成2年
//	亀 谷 克 幸	平成2年
//	村 上 繁 雄	平成4年
//	本 川 満	平成4年
//	佐 古 肇 徳	平成4年
//	大 下 正 人	平成5年
//	小 河 修 二	平成6年
//	賀 川 謙 二	平成7年
//	松 尾 明	平成8年
//	倉 本 給 都	平成11年
//	川 神 健 司	平成12年
//	柏 村 英 男	平成13年
//	直 江 昌 治	平成14年
//	段 原 良 則	平成15年
//	藤 田 雅 史	平成17年
//	多郎畑 誠	平成18年
//	古 藤 秀 也	平成19年
//	大 橋 哲 也	平成20年
//	岡 田 巨 弘	平成21年
//	伊 原 憲 吾	平成22年
//	小 寺 利 尚	平成26年
//	永 田 博 幸	平成27年
//	泉 川 竜 生	平成28年
//	河 野 一 郎	平成29年
//	岩 田 誠	平成30年
//	樫 山 太 介	令和元年
//	伊 藤 弘 泰	令和2年
//	奥 円	令和3年



OB・OG会員名簿・物故会員

OB会員名簿

氏名	卒業年度
牛尾 徹彦	昭和36年度
草野 恵	昭和41年度
服部 和雄	昭和42年度
肥川 進	昭和42年度
園山 薫	昭和45年度
三明 忠	昭和48年度
長見 敏正	昭和49年度
大野 博	昭和50年度
宮田 弘	昭和50年度
藤井 潮	昭和51年度
下谷 徳好	昭和51年度
半田 貢雪	昭和51年度
松下 修行	昭和51年度
森川 芳郎	昭和51年度
大田 忠典	昭和51年度
福浜 宏二	昭和52年度
森原 淳	昭和53年度
戸津川 寛	昭和53年度
文野 隆	昭和54年度
能美 道嬉	昭和54年度
高野 衛侑	昭和55年度
教重 静雄	昭和55年度
梅村 洋	昭和56年度
五島 秀男	昭和56年度
水野 文雄	昭和56年度
下村 洋一	昭和56年度
山形 仁	昭和57年度
大川 清志	昭和57年度
小谷 健二	昭和57年度
松岡 義之	昭和57年度
石田 和通人	昭和57年度
町原 敏貞	昭和57年度
松尾 俊和	昭和58年度
森脇 厚博	昭和58年度
高橋 克弘	昭和58年度
樋口 明機	昭和58年度
前本 征生	昭和59年度
新田 正人	昭和59年度
松田 隆敏	昭和59年度
岩谷 百合雄	昭和59年度
小原 誠	昭和60年度
吉田 稔	昭和60年度
桐田 浩造	昭和60年度
新田 健浩	昭和61年度

氏名	卒業年度
小寺 武三	昭和61年度
百田 寿	昭和61年度
横田 将親	昭和62年度
内藤 昌晃	昭和62年度
服部 孝之	昭和62年度
佐々木 憲良	昭和62年度
坂 善晴	昭和62年度
原田 豊	昭和62年度
竹本 静恵	昭和62年度
南 正弘	昭和63年度
玉川 諭	昭和63年度
福井 伸夫	昭和63年度
藤原 邦夫	昭和63年度
橋岡 心一	昭和63年度
山田 恵一	昭和63年度
宮下 良治	昭和63年度
黒田 章夫	昭和63年度
伊藤 恭二	平成元年度
国分 俊幸	平成元年度
飯田 統通	平成元年度
松本 健治	平成元年度
橋本 立一	平成元年度
渡辺 恭郎	平成2年度
田原 道人	平成2年度
小谷 芳昭	平成2年度
大野 寿男	平成2年度
中束 多久夫	平成2年度
亀谷 克幸	平成3年度
川野 道高	平成3年度
河野 博	平成3年度
金山 浩二	平成3年度
宮崎 勉	平成3年度
三浦 英俊	平成4年度
勝山 揚子	平成4年度
村上 繁雄	平成4年度
本川 満	平成4年度
佐古 肇徳	平成4年度
桑本 達夫	平成5年度
岩元 正一	平成6年度
森須 清貴	平成6年度
小河 修二	平成6年度
森脇 良孝	平成6年度
城市 正人	平成6年度
金子 義久	平成7年度

(昭和35年度卒業～令和3年度卒業)

氏名	卒業年度
東 喜久雄	平成7年度
山岡 敏重	平成7年度
松阪 博之	平成8年度
飯島 秀樹	平成8年度
澁谷 幹雄	平成8年度
蔵本 洋介	平成8年度
松尾 明	平成8年度
間野 大司	平成8年度
藤本 太郎	平成8年度
曾我 義伸	平成8年度
小松原 一則	平成9年度
吉野 茂男	平成9年度
山本 俊二	平成9年度
江木 修二	平成10年度
大向 寛	平成10年度
武田 享	平成10年度
津森 一正	平成10年度
寺田 浩士	平成10年度
中垣 健	平成10年度
螺山 郁繁	平成10年度
松本 時郎	平成10年度
倉本 給都	平成11年度
永井 敏雄	平成11年度
平野 義弘	平成11年度
川神 健司	平成12年度
矢口 あおい	平成12年度
佐々木 良二	平成13年度
則皮 周一	平成13年度
柏村 英男	平成13年度
直江 昌治	平成14年度
楨岡 憲治	平成15年度
段原 良則	平成15年度
茶円 宥勝	平成15年度
今井 久晴	平成15年度
大島 辰郎	平成16年度
中山 善之	平成16年度
藤田 雅史	平成17年度
角 昭継	平成17年度
和田 浩	平成17年度
久保田 英治	平成17年度
山根 真一郎	平成17年度
大谷 幸治	平成18年度
原 雄一	平成18年度
多郎畑 誠	平成18年度

氏名	卒業年度
岡田 久	平成19年度
田中和 実	平成19年度
尾崎 靖	平成19年度
剛矢 和人	平成19年度
佐々木 弘泰	平成19年度
毛利 栄就	平成19年度
古藤 秀也	平成19年度
岡山 直美	平成20年度
大橋 哲也	平成20年度
瀬川 真司	平成20年度
佐々木 尚久	平成20年度
山平 真司	平成20年度
宮田 智裕	平成20年度
岡田 亘弘	平成21年度
前本 隆行	平成21年度
天羽 貴彦	平成22年度
三澤 喜孝	平成22年度
伊原 憲吾	平成22年度
畑岡 匡	平成23年度
小寺 利尚	平成26年度
濱松 巧	平成26年度
永田 博幸	平成27年度
石橋 恒	平成27年度
笹岡 昭宏	平成27年度
廣瀬 由架里	平成27年度
谷尾 幸	平成28年度
鈴木 美由紀	平成28年度
小田 奈穂子	平成28年度
泉川 竜生	平成28年度
善田 知紀	平成29年度
河野 一郎	平成29年度
遠藤 祐之	平成29年度
高野 公愛	平成30年度
大迫 正明	平成30年度
岩田 誠	平成30年度
浅津 伸行	平成30年度
府川 要之	平成30年度
福井 治	平成30年度
中尾 浩	平成30年度
磯野 洋一	平成30年度
樋山 太介	令和元年度
伊藤 弘泰	令和2年度
金子 雅一	令和2年度
奥 円	令和3年度

物故会員

氏名	卒業年度		
儀 恒 春	昭和33年度	平成5年8月25日	
園 部 義 定	昭和34年度	昭和45年1月21日	
玉 川 舜一郎	昭和34年度	平成元年11月10日	
斎 藤 元	昭和35年度	昭和49年12月10日	
山 形 勝 利	昭和35年度	昭和58年6月3日	
川 本 八 郎	昭和35年度	平成9年8月25日	
牛 尾 公 介	昭和35年度	平成23年11月22日	
小松原 惇	昭和36年度	昭和59年1月14日	
重 元 秀 夫	昭和36年度	平成6年2月15日	
吉 田 保 夫	昭和36年度	平成10年12月15日	
宮 脇 金 作	昭和36年度	平成12年4月	
西 島 俊	昭和36年度	平成15年11月20日	
新 田 喜 久	昭和36年度	平成28年9月3日	
石 田 景 三	昭和37年度	平成15年1月11日	
床 並 良 夫	昭和37年度	平成19年1月25日	
宮 本 敏	昭和37年度	平成19年4月7日	
石 原 清二郎	昭和38年度	平成16年12月18日	
稲 葉 登	昭和38年度	平成21年1月8日	
浜 村 幸 雄	昭和38年度	平成23年6月21日	
大 島 章	昭和38年度	平成26年1月10日	
福 井 潔	昭和38年度	令和元年11月1日	
杉 本 隆 司	昭和39年度	平成10年4月29日	
床 並 秀 夫	昭和39年度	平成17年4月10日	
木 村 秀 夫	昭和40年度	平成8年7月3日	
坂 田 英 司	昭和40年度	平成24年2月29日	
松 尾 徳 郎	昭和40年度	平成24年9月20日	
中 島 直 金	昭和41年度	昭和59年1月15日	
天 津 隆 昌	昭和41年度	昭和60年12月10日	
金 子 多美男	昭和41年度	平成9年10月9日	
森 須 幹	昭和41年度	平成25年10月11日	
平 野 重三郎	昭和42年度	昭和61年4月23日	
長 谷 善 則	昭和42年度	平成7年8月9日	
吉 田 武	昭和43年度	平成10年5月31日	
小 林 啓 一	昭和43年度	平成23年10月22日	
高 羽 芳 晴	昭和44年度	平成19年2月5日	
沖 田 栄 一	昭和44年度	平成21年3月4日	
竹 原 茂 久	昭和44年度	平成23年5月3日	
山 根 敏 伯	昭和44年度	平成24年3月25日	
石 原 康 助	昭和45年度	昭和52年1月22日	
松 坂 嵩	昭和45年度	平成10年6月23日	
畑 岡 辰 夫	昭和45年度	平成13年2月	
山 本 光 重	昭和45年度	平成13年11月	
津 間 恭 憲	昭和45年度	平成17年10月12日	
柏 村 寿 一	昭和45年度	平成23年6月25日	

氏名	卒業年度		
儀 清 英	昭和45年度	平成25年11月14日	
清 水 良 雄	昭和46年度	昭和54年7月23日	
清 本 勝	昭和46年度	平成21年4月24日	
佐々田 義 隆	昭和46年度	平成13年2月	
樫 山 靖 之	昭和46年度	平成28年4月2日	
湯 浅 久 則	昭和48年度	平成21年2月8日	
大 島 基	昭和48年度	平成27年3月9日	
西 坂 耕 一	昭和48年度	令和元年9月28日	
久保田 政 男	昭和48年度	令和5年2月23日	
岡 本 敏 勝	昭和49年度	昭和57年10月5日	
佐々木 敬 三	昭和49年度	平成12年11月	
後 藤 知 功	昭和49年度	平成13年2月	
浜 松 茂	昭和49年度	平成14年4月	
尾 崎 義 男	昭和50年度	令和元年9月16日	
小 川 和 男	昭和50年度	令和2年4月3日	
畑 岡 節 夫	昭和51年度	昭和52年4月1日	
和 田 要 司	昭和51年度	平成7年12月7日	
宮 本 英 男	昭和51年度	平成19年4月14日	
山 根 雅 男	昭和51年度	平成20年2月26日	
石 本 巖	昭和51年度	令和2年3月11日	
伊 津 英 雄	昭和51年度	令和3年10月24日	
高 見 庄 平	昭和51年度	令和5年3月3日	
瀬 川 勲	昭和52年度	平成5年12月8日	
高 橋 猛 夫	昭和52年度	平成14年12月18日	
赤 松 豊	昭和52年度	平成15年1月	
木 田 裕 士	昭和52年度	平成28年9月3日	
藤 田 恒 夫	昭和53年度	平成26年11月29日	
内 藤 正 剛	昭和54年度	平成7年5月17日	
浄 西 敏 夫	昭和55年度	平成26年6月7日	
片 山 勲	昭和55年度	平成20年3月26日	
遠 藤 公 輝	昭和56年度	平成26年11月24日	
高 橋 正 紘	昭和56年度	平成28年12月23日	
金 子 郁 郎	昭和57年度	昭和62年8月17日	
佐々木 保	昭和58年度	平成7年8月6日	
後 藤 佳 弘	昭和59年度	平成25年7月29日	
湯 浅 勝	昭和59年度	平成28年12月27日	
青 木 豊	平成元年度	平成11年3月	
石 田 健	平成2年度	平成26年8月5日	
佐々木 末 利	平成5年度	平成15年1月8日	
大 下 正 人	平成5年度	令和5年5月18日	
賀 川 謙 二	平成7年度	令和5年9月28日	
佐々本 正 昭	平成11年度	令和3年8月28日	
岡 野 克 俊	平成17年度	平成30年6月7日	



編集後記

創立65周年記念誌を作成するにあたり、改めて(一社)浜田青年会議所の65年という長い歴史を振り返る事ができました。

(一社)浜田青年会議所が今後より一層発展していくためにも、先輩諸兄姉が築かれた歴史や伝統、そして想いを70周年に向けて紡いでいきます。

結びに、創立65周年記念誌を発行するにあたり、心のこもった御祝辞を頂戴いたしました多くの皆さま方をはじめ、先輩諸兄姉、各地青年会議所の皆さまより、多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに感謝を申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

一般社団法人 浜田青年会議所 65周年実行委員会

委員長 福田 直人

副委員長 森 脇 淳一

委員 新田 拓哉

木村 知恵美

岡田 拓也

畑 岡 聡

高松 頌司



一般社団法人 浜田青年会議所 創立65周年記念誌

発行日 2023年12月25日

発行所 一般社団法人 浜田青年会議所

編集 65周年実行委員会

印刷 柏村印刷株式会社



Junior Chamber International Hamada
一般社団法人 浜田青年会議所



Junior Chamber International Hamada
一般社団法人 浜田青年会議所

